

平成21年度

中英研會報

第68号

東京都中学校英語教育研究会

＜平成21年度＞ 行 動 目 標

東京都中学校英語教育研究会は、21世紀における中学校英語教育のなお一層の充実・発展を目指して活動することによるその意義を有するものである。

よって、つぎのような行動目標のもと積極的にその活動を推進する。

1. 組織の充実とその活性化を図る。
 - (1) 都中英研の組織がより強固なものとなるようその充実を図り、改善を行う。
 - (2) 都中英研の各種事業により多くの教員や学校が参画することを通して、その活性化を図る。
 - (3) 都中英研の諸活動が一層活発に進められるよう、各地区の部長、幹事と連携を密にし、組織としての基盤づくりに努める。
2. 財政基盤の充実を図る。
 - (1) 従来の事業内容を見直し、経費の節減を図る。
 - (2) 新たな事業の展開を積極的に行い、収入源の確保を図る。
 - (3) 会費制の導入について、その検討を行う。
3. 人材の発掘とその育成に努める。
 - (1) 有能な人材を発掘し、リーダー層の育成を図るとともに、英語教員全体の資質向上を推進する。
 - (2) 教員の資質向上を目指した研修事業を積極的に企画し遂行する。
 - (3) 英語教員の養成と研修の充実を目的に、授業研究を一層活発に推進できるよう支援体制を整備する。
4. 調査・研究機関の充実を図る。
 - (1) 英語教育に関わる基礎的事項や活動実態についての調査活動を遂行する。
 - (2) 英語教育に関わる今日のかつ実践的な課題についての研究活動を遂行する。
 - (3) 新学習指導要領移行期間に入り、その趣旨を踏まえ、円滑に全面実施ができるよう研究を推進する。
5. 英語教育に関わる関係機関や関係団体との連携を図る。
 - (1) 「全英連中学部会」との関わりを一層深め、外部機関主体的に発信できる組織作りを目指す。
 - (2) 文部科学省や東京都教育委員会との関わりをより充実させる。
 - (3) その他、英語教育に関わる関係諸団体との関わりをより充実させる。
6. 英語教育に関わる各種情報の収集・発信を進め、研究大会の構想に着手する。
 - (1) これまでの広報媒体を活用して、各種情報の発信を行う。
 - (2) H. Pの活用を図り、それを通して各種情報の受・発信を行う。
 - (3) 平成22年度開催の関東甲信地区英語教育研究協議会東京大会に向け、実行委員会を設置し、本格的な準備を進める。

目 次

●都中英研の役割を考える	井田 宗宏	1
●これからの中学校英語教育	平木 裕	2
●新学習指導要領の全面実施に向けたポイント	岩崎紀美子	4
●外国語(英語)に関する研修について	東京都教職員研修センター	6
●小学校外国語活動と中学校外国語科との連携(10)	太田美智彦	8
●実践研究		
(1) 東京都英語学芸大会Playの部 第1位	山本 崇雄	10
(2) 東京都英語学芸大会Speechの部 第1位	高橋 若美	12
(3) 事業部 授業力アップ研修会 研究授業	前川 卓哉	13
(4) 東京教師道場の魅力	角田 幸彦	17
(5) 教師道場は貴重な経験の場	栗本 直子	18
(6) 小学校外国語活動の実践	五十嵐浩子	19
(7) 事業部 サマーワークショップ	前川 卓哉	21
●各部報告		
・総務部報告	飯島 光正	23
・事業部報告	横山 達也	24
・調査部報告	重松 靖	25
・研究部報告	北原 延晃	27
・プロジェクト・チーム部報告	石川 賢司	28
・出版部報告	池田 武男	29
●研究大会報告		
・第49回 十五大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会(北九州大会)	阿字 宏康	30
・第59回 全英連総会 全国英語教育研究会大会(東京大会)	清水研一郎	31
・第33回 関東甲信地区中学校英語教育研究会(埼玉大会)	飯島 光正	32
●各地区の活動状況		34
●中英研事業報告		61
●中英研会則		63
●役員一覧		65
●あとがき		71

都中英研の役割を考える

会長 井田 宗宏
(東大和市立第二中学校校長)

都中英研会報第42号の巻頭言に「今こそ、一人一人の教師の力量が問われる時であると思います。先輩は後輩に助言し、後輩は先輩に教をこい、あたたかく手をつないで、生徒のために結集する時であると思います。」とあります。今から四半世紀前、当時の中英研会長、川島鶴次先生の言葉です。たいへん個人的になりますが、私は先生のご指導のおかげで、都中英研に関わるようになり、その後もお世話になっているうちの一人です。

この言葉の意味を再度噛みしめながらよく考えてみますと、先生のお人柄と合わせて現在の本会に違和感なくそのまま自然に当てはまることに気がつきます。教師だけではなく人間そのものの本質は、いかに時代が変化しても不変で、だからこそ日々研鑽に励むことの重要性を説かれているような気がしています。

六十数年の歴史と伝統のある都中英研には、これまで多くの先人たちが苦労を重ね培ってきた財産があります。それらを礎に着実に受け継ぎ、さらに発展するための具体策を考えていかなければなりません。今こそ変革期にある中学校英語教育を確かな方向へと導くことが求められています。都中英研に関わる英語科教員は「まず自分の学校を、子どもたちを大切に、なおかつ人一倍、英語教育に厚い情熱を持ち続ける」という基本姿勢を踏まえることが大切です。

折しも、平成24年度から中学校では、新教育課程が全面実施されます。中学校英語は、すべての教科の中で最も時数が多くなります。これを軌道に乗せるためには、これまで以上に英語科教員の一人一人の力量が試されることとなります。

今年度からの移行期においては、4技能を総合的に育成する指導のあり方や文法指導と言語活動を一体的に行う指導の工夫、さらにはコミュニケーション活動についても新たな素地の育成を引き継ぐことなどが求められております。

今年度は、次年度開催される関東ブロック東京大会に向けて、具体的な準備を推し進め、その助走期間になった1年でもありました。東京独自の開催方式で、来年度の関ブロ大会をぜひ成功に導いていきたいと考えております。10月には、全英連大会が東京を会場に開催され、都中英研はその運営に主体的に関わってきました。東京には毎年のように大きな負荷がかけられているようですが、毎回の積み重ねで、中学校英語教育の基盤は一層強固なものになりつつあります。

また年間を通して、各種の事業には、毎回、多くの英語科教員が参加しています。今年度も、着実に一歩ずつ前進できる組織へと成長を続けてきました。しかし組織が大きく、端々まで浸透させるためには、まだまだきめ細かな配慮と労力が必要です。授業力・英語力を合わせ持つ若手・中堅の英語科教員の育成も大きくクローズアップされてきました。

会員の皆様におかれましては、学校を取り巻く環境が一層厳しくなる中ではありますが、今後とも一層連携を深め、東京都の中学校英語教育の充実に向けて、共に歩んでいきたいと思っております。この1年間、会員の皆様のご協力に心から感謝申し上げますとともに、一層の発展を祈念しています。

これからの中学校英語教育

～小学校及び高等学校との接続という視点から～

文部科学省初等中等教育局教育課程課・国際教育課 教科調査官 平木 裕

1 中学校こそ変わらなければならない！

新学習指導要領が公示されてから2年が経過し、全面実施までの3年間の移行期間のうち1年目が終わろうとしている。改訂のポイントや実施に向けての注意点等については、菅正隆前教科調査官が昨年度の本会報において論じているので詳細は割愛するが、この2年の間に、中学校の先生の意識はどの程度変化したのだろうか。同時に改訂された小学校学習指導要領では「外国語活動」が導入され、昨年改訂された高等学校学習指導要領では「授業は英語で行うことを基本とする」と規定された。日本の英語教育がこのように大きな変革期を迎えつつある今、中学校ではどのようなことが話題になっているのだろうか。中学校こそが変わらなければ、この変革は真に大きなうねりとはなり得ないことを、最初に強調しておきたい。

2 全面実施に向けた指導改善の方針

移行期間初年度に入ったのを機に、『中等教育資料』（平成21年4月号）の中で今後の指導改善の方針を次の4点にまとめて示した。

- ① 4技能の総合的な育成
- ② 小学校における外国語活動を踏まえた指導
- ③ 知識・技能の活用を図る言語活動の充実
- ④ 語彙の充実

①と②については、「小中の接続」という改訂のキーワードによって密接に関連合っているわけであるが、今年度からほぼすべての公立小学校で外国語活動が先行実施されている実態に鑑み、小学校、とりわけ校区内の小学校での実施状況をきちんと把握しておく必要が出てきた。文部科学省による全国調査をみると、校区内の小学校との連携を図っている中学校は、一昨年度が全体の38.0%であったのに対し、昨年度は46.7%とやや増加傾向にあるものの、小中連携が十分に行われていると言うにはまだ程遠い状況にある。中学校区単位を中心として、情報交換（指導方法等についての検討会、小中合同研修の実施など）、交流（授業参観、中学校教員による小学校での授業など）、小中連携したカリキュラムの作成といった小中連携に具体的に取り組むことが不可欠である。同時に、市区町村教育委員会には、そうした取組に対する積極的な支援のほか、他地域での先進的な実践事例に関して、管内の小中学校への紹介や普及も望まれる。

また、『英語ノート』を始めとして小学校で使用される教材について、その内容や授業展開、児童の反応等を踏まえ、「読むこと」「書くこと」の領域の指導も意識しながら、特に第1学年においていかに活用するかといった視点が、授業改善や年間指導計画

作成にかかわって今後ますます現実味を帯びてくるであろう。

次に③の点であるが、これは授業時数増のメリットを最も生かすことができる部分であると言える。現行教育課程では時間の関係で十分に行えていない指導について、より一層工夫がしやすくなることへの期待も大きいと思われる。

領域ごとの言語活動を充実させたことや、語、連語及び慣用表現や文法事項の指導について「活用することを通して定着を図る」「実際に活用できるように指導する」ことを明確にしたことは言うまでもないが、前述のように、高等学校新学習指導要領において「授業は英語で行うことを基本とする」と示されたことにも注目してほしい。英語による言語活動を中心に授業が展開される高等学校への円滑な接続を図るためにも、中学校においては、教師・生徒が相互に英語を用いて行う言語活動を充実させることがますます重要性を増すことになる。小中連携もさることながら、高等学校との接続も視野に入れた授業改善が必要とされる所以である。

最後に、④について述べたい。在籍中に新課程に移行することになる生徒（平成22年度及び23年度入学者）に対する配慮について『中等教育資料』（平成20年7月号）で論じているとおり、新課程の教科書になった際の語彙の負担は十分想定されることを再認識しなければならない。③の言語活動の充実とも関連するが、より豊かな表現を可能にし、コミュニケーションを内容的にも一層充実したものにすることを目的に、指導する語数を増加したという趣旨を理解した上で、現行教科書による指導の段階から、例えば言語活動の中で学習内容に関連する語も紹介し使用させるなど、語彙の充実を図る工夫が求められる。

以上述べてきた留意点を踏まえ、今後の授業改善に取り組むとともに、年間指導計画の練り直しにも着手してほしい。

3 最近の英語教育研究会での様子から

最後に、最近ある県での英語教育研究会にお招きいただいた時のことにふれて終わりたい。主催は高等学校の英語部会であったが、県内の小学校・中学校にも参加を呼びかけた結果、当日は約130人の参加者のうち30人余りは小・中の先生が占めていた。このように校種をこえて英語教育の研修に先生方が集うケースは、全国で着実に増えつつある。小一中一高の接続という視点を抜きにしては英語教育を語れなくなった現在、そういった新しい動きは大いに歓迎したい。

小学校での取組の成果というバトンをいかに確実かつ効果的に引き継ぐか、そしてそのバトンをいかに責任をもって高校に手渡すか、そのことを常に忘れず、教室の先生と生徒がキラキラ輝く授業づくりが推進されることを期待している。

新学習指導要領の全面実施に向けたポイント

東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課 指導主事 岩崎紀美子

1 目 標

外国語科の目標は、コミュニケーション能力の基礎を養うことであり、次の三つの事項を念頭において指導する必要がある。

- ① 外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深める。
- ② 外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
- ③ 聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

①は、外国語の学習において、その言語の仕組み、使われている言葉の意味や働きなどが分かるようになることや、その言語の背景にある文化に対する理解を深めることの重要性を述べたものである。

②は、コミュニケーション能力を育成するためには、コミュニケーションへの積極的な態度を身に付けることが重要であることを述べたものである。

③は、外国語によるコミュニケーション能力の育成を掲げたものであるが、これを最後に置くことによって、最重要事項であることを強調している。併せて、4技能の総合的な育成という改善の基本方針も盛り込んだ記述としている。

2 内 容

(1) 言語活動

中学校では、コミュニケーション能力の基礎を養うことを目標としている。そのため、英語を聞いたり、話したり、読んだり、書いたりする基礎的な言語活動をバランスよく計画的・系統的に行うことが大切である。

今回の改訂では、授業時数を各学年で105時間から140時間に増加させているが、指導する語の総数を除き、文法事項等の指導内容はほとんど増加させていない。これは、言語活動の充実を通じて、言語材料の定着を図り、コミュニケーション能力の基礎を育成することを意図したものである。

(2) 言語活動の取扱い

各学年及び3年間を通した目標を設定した上で、言語活動を発展させるよう指導計画を作成する必要がある。さらに、四つの領域のバランスに配慮した言語活動を行わせることが重要である。

(3) 言語材料の改善事項

授業時数が各学年とも105時間から140時間に増加し、指導する語の総数を1200語程度としたことで、言語活動の一層の充実を図ることが可能となった。

(4) 言語材料の取扱い

文法については、コミュニケーションを支えるものとしてとらえ、コミュニケーションを実際に行う言語活動と効果的に関連付けて指導することが重要である。

3 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成上の配慮事項

- ① 指導計画の作成に当たっては、3年間を通して英語の目標の達成を図るため、各学校において学年ごとの目標を適切に定めることが必要である。
学年ごとの目標を定めるに当たっては、
 - ・第1学年においては、特に、小学校における外国語活動の内容や指導の実態等を十分に踏まえること。実際に入学者が在籍していた小学校において、どのような単語や表現を用いた活動が行われているかを把握すること。
 - ・第2学年及び第3学年においては、事実関係を伝えたり、物事について判断を下したりした内容の中から、さらには、様々な考えや意見などの中から取り上げる話題を徐々に発展させること。
- ② 言語材料の指導については、一般的に平易なものから難しいものへと段階的に指導することが大切である。
- ③ 授業時数の増加に伴って言語活動を充実させることが可能となったことを受けて、指導する語数を増加させている。「活用することを通して定着を図るようにする」ためには、単に機械的に記憶させるのではなく、具体的な場面や状況で適切に用いるようにして定着を図ることが極めて大切である。
- ④ 辞書の使い方に慣れさせるためには、生徒が適宜辞書を繰り返し使用し、調べたい単語を辞書を使って自由に調べるということを普段から行わせる必要がある。
なお、辞書指導に関しては、3年間を通して適宜辞書を活用させることが大切である。
- ⑤ 学習形態の工夫としては、ペアワークやグループワークが挙げられているが、生徒一人一人の活動が行いやすいという利点を生かして、これらの形態を適宜取り入れながら、効果的な授業展開ができるようにする必要がある。

(2) 教材選定の観点

教材の選定に当たっては、生徒の発達の段階、興味・関心について十分に配慮しつつ、英語の目標に照らして適切であり、学習段階に応じた言語材料で構成されているような適切な題材を変化をもたせて取り上げるように配慮する必要がある。

東京都教職員研修センターにおける 外国語（英語）に関する研修について

東京都教職員研修センター 統括指導主事 宮野 聡
指導主事 林 宣之

平成21年度は、外国語（英語）に関する専門性向上研修を下記のとおり実施し、多くの先生方が受講した。

＜専門性向上研修 英語Ⅰ＞（全3回）

「授業の基礎・基本を学ぶ英語科の学習指導案づくり」

- ねらい… 学習指導要領の理解や学習指導案の作成、指導方法などについて学び、日々の授業実践に生かすことをねらいとする。
- 特 色… 授業実践に結び付く学習指導案の作成等や授業の導入における教材の工夫等の基礎・基本について学んだ。
- 講 師… 昭和女子大学 金子 朝子 教授 他

＜専門性向上研修 英語ⅠA＞（全3回）

「創る！小学校外国語活動の教材と学習活動」

- ねらい… 新学習指導要領で創設された小学校外国語活動で重視されている、積極的にコミュニケーションを図る態度を育成するための教材や学習活動について学ぶ。
- 特 色… 津田塾大学との連携により、小学校外国語活動の基礎・基本について、教材の体験等の演習をとおして、授業づくりに必要な知識について学んだ。
- 講 師… 津田塾大学オープンスクール講師 他

＜専門性向上研修 英語ⅡA＞（全2回）

「英語科における『コミュニケーション能力』を育てる指導の工夫と評価」

- ねらい… コミュニケーション能力を育てるための言語活動における指導の工夫や評価の基本的な考え方を学び、日々の授業改善に生かす。
- 特 色… 授業に生かせる言語活動の工夫や生徒の学習状況を評価する方法について学んだ。
- 講 師… 武蔵野大学 長 勝彦 客員教授 他

＜専門性向上研修 英語ⅡB＞（全2回）

「理解力や表現力を育てる英語の授業のポイント」

- ねらい… 英語科における「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の技能を総合的に育てる言語活動について学び、授業改善に生かす。

○特 色… 津田塾大学との連携により、新学習指導要領で重視されている、生徒が積極的に自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解しようとするための指導について学んだ。

○講 師… 津田塾大学オープンスクール講師 他

＜専門性向上研修 英語Ⅲ＞（全3回）

「これからの英語の授業への取組み」

○ねらい… 英語科教育の今日的な課題やこれからの指導の在り方について理解し、各地域における教科指導の指導者としての必要な資質・能力を高める。

○特 色… 中央教育審議会専門部会委員を務め、英語講座等で活躍している吉田研作先生から、これからの英語教育について、オールイングリッシュによる講義を受けた。

○講 師… 上智大学 吉田 研作 教授 他

このほかに、以下の外国語（英語）に関する研修を実施した。

＜東京都公立小学校外国語活動中核教員研修＞（夏季休業日3日間）

○ねらい… 小学校における外国語活動を円滑に進めるために、各小学校等の外国語活動を主に担当する教員を対象として、外国語活動の在り方や学級担任の役割等について必要な知識等の習得を図る。受講者は、平成21年度から22年度の間、計30時間程度（研究授業等を含む）の校内研修を運営し、現職の教員全員に研修の内容を伝達する。

＜進学指導のための授業力向上研修＞（全3回）

○ねらい… 昨今の大学入試の現状と課題について学び、教科指導における授業力及び進学指導における実践的な指導力を高める。

＜中高一貫教育校教員養成研修＞（全11回）

○ねらい… 中高一貫教育の趣旨や教養教育、6年間を見通した学習指導等について理解を深めるとともに、中高一貫教育校における教育課程と教科指導について学ぶ。

＜東京教師道場＞（1年次・2年次 各全14回）

○ねらい… 東京都公立学校の児童・生徒の学力向上を図るため、教員の「授業力」を一層高めるとともに、他の教員の指導的役割を担うことのできる資質・能力を育成する。

＜東京教師道場錬成講座＞

○ねらい… 東京教師道場修了者等に対して、教科等の専門性のさらなる向上、教育課程全般や組織マネジメント等に関する理解を通して視野を広げ、様々な知識を融合して実践的に課題を解決することができ、他の教員を指導することができる資質・能力を育成する。

小学校外国語活動と中学校外国語科との連携（10）

－小中活動内容の接続を目指して－

元中英研会長 太田 美智彦

平成23年度から、小学校5・6年生でそれぞれ年間35時間の外国語活動（英語活動）が必修となる。移行期間も踏まえると平成24年の4月には、中学校では、多くの小学校で少なくとも70時間近い英語活動を体験した生徒を受け入れることになる。

聞いたり話したりすることに抵抗を感じない、ALTに物怖じしないなど、コミュニケーションへの積極的な態度を身に付けてきた生徒たちを、中学校ではどのように迎え、どのように育てていけばよいのか、小中の連携は今後の大きな課題である。

I 移行措置期間中における英語活動の状況

平成21年度に入って、これまで消極的であった小学校も英語活動に真剣に取り組むようになった。区市町村や各小学校によって、ALT等の派遣時数や教材教具の準備、年間授業時数や年間指導計画の有無、学級担任主導の授業等、諸条件や指導内容・方法に温度差はあるものの、全体的に活発になってきている。何よりも嬉しいことは、教委主催の中核教員対象の研修会の成果もあって、中核教員が立派に成長し、自ら率先して研究授業を行い、英語活動の授業のあり方等で他の教員のよき相談相手になったことである。また、英語ノートが配布されて、その活動内容を学校の計画や児童の実態に合わせて改善し、授業で検証して平成23年度からの完全実施に向け、年間指導計画・評価計画作成に向けて着々と準備していることである。

II 今後の小中連携のあり方一考察

1 中学校教員の意識改革

小学校での英語活動の導入にともなって、中学校の英語教育にも変化が求められている。小学校英語活動に対して中学校の殆どの教員が関心を示しているものの、そのねらいや内容・方法についてあまりにも知らないように思われる。中学校側が最低限押さえておきたいことは、小学校の授業をよく見ることであり、英語ノートから英語活動のヒントをつかむことである。また、中学校の授業も見せ、意見交換を行って電話やメールで連絡がとれるような小中教師間のよい人間関係をつくることである。そして、英語活動体験生徒を受け入れるための校内研修も進めたい。

2 小中のカリキュラムにおける接続

(1) 小中の目標の正しい理解

	小学校	中学校
①	言語・文化についての体験的理解	言語・文化についての理解
②	コミュニケーションを図ろうとする態度	コミュニケーションを図ろうとする態度
③	聞く・話すを中心としたコミュニケーション能力の素地	聞く・話す・読む・書くなどのコミュニケーション能力の基礎

(注) 外国語活動の目標の③の柱「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら」は、①と②の柱を達成するための手段ととらえる。(直山木綿子著「初等教育資料2009年7月号」)

(注) ③の柱は、①の中に含めたことが明示されている。(「外国語活動編解説6頁」)

(2) 小中の系統性あるコミュニケーション活動の接続

9年間にわたる小中の発展的なカリキュラムの系統表を作成するには、その共通の軸を学習指導要領の、小学校では「コミュニケーションの場面の例」「コミュニケーションの働きの例」から、中学校では「言語の使用場面の例」「言語の働きの例」から学校等の実態を考え設定する。例えば、あいさつ、自己紹介、買物、地域の紹介等を共通の軸とし、学年の発達段階別に、既習表現を繰り返しながら、その上に新出表現や語彙等を加え、系統表を作成していく。その際、英語ノートにおける場面での表現や語彙が、中学校教科書でどのように扱われているか調べておく。

(3) 中学校接続期(入門期)の指導

まず、英語ノート中心の英語活動で日常的に使われてきた表現や語彙等を用いて、あいさつ、自己紹介、好き嫌いなど、コミュニケーション活動をグループ活動等で思い起こさせる。中1は、入門期の段階ですすでにある程度のコミュニケーション能力を身につけ、対話、歌、ゲーム等について楽しんできている。中学校ならではの工夫をこらし、歌、ゲーム等も取り入れる。また、フォニックスの手法などを用いて、音声を通じて体験した英語を文字として導入し、読む・書く活動を交えて基本的な語彙の定着を図る。教室英語はそのまま生かせる。これまで、かたまり(chunk)として慣れ親しんだ表現をルールという観点からも学習する。

3 授業を通して連携を図る

一つの中学校と近隣の小学校1、2校で連携のための組織をつくる。その組織の中で小中一貫のカリキュラムを開発し、授業の交流を通して、指導内容・方法の理解を図る。時に、小学校の担任と中学校の英語科教師とでTTの授業を実践し、そのことで、中学校の教師は児童の反応をじかに感じ取ることができ、小学校の担任は教室英語の使い方や英語の音声などの英語力アップに役立てることができる。また、安心して担任主導の英語活動の授業ができる。児童も兄姉の先生ということで親しみがわき、進学先の教師ということで不安なく進学できる。

III 小中連携上の課題

中学校区に複数の小学校がある場合には、まず小学校間で英語活動の足並みを揃えておく必要がある。また、授業を通しての交流や、小中連絡協議会の開催などで大きな課題は、時間の確保である。行政の協力も願いたいところである。前述のように、中学校側が近隣小学校の英語活動の実態を十分把握し、それを中学校のカリキュラムに生かし、小学校で楽しかった英語活動が中学校で英語嫌いにならないよう心掛けることが大切である。

エンターテインメント性とメッセージ性の追求

～英語劇で力のあることばを発信させる経験を～

都立両国高等学校附属中学校 山本 崇雄

生徒が発する英語が、その場の空気を動かし、心に届いてくる。新任の時に、初めて英語劇の都大会を見学に行き、舞台からあふれる力に気おされた。もともと、舞台やミュージカルが好きだった私は、いつか生徒と共に、劇を作りたいと思うようになった。そして、初めて都大会に出場して以来、毎年作品を作り続け、10年以上が経過した。振り返ると、様々な作品（下表）と共に、参加した生徒たちの顔が浮かんでくる。彼らの努力や苦労が一つの道になり、今回の初優勝につながったと感じている。

都大会	タイトル	所属中	入賞の記録	テーマ
52回	The Elephant Song	大田区立 御園中	出場	戦争
53回	The Color of Nature		出場	エイズ問題
54回	The Seasons of Snow		出場	エイズ問題
55回	A Little Shining Star		特別賞	エイズ問題
56回	Rainbow Maker		出場	エイズ問題
57回	Still as a Little Shining Star		出場	エイズ問題
58回	Under the Same Sky		第三位	戦争
59回	The Seasons of Snow 2006	都立 両国高校 附属中	オープン参加	エイズ問題
60回	A Little Shining Star 2007		第三位	エイズ問題
61回	Rainbow Maker ~The Invisible Things~		出場	エイズ問題
62回 今回	Under the Same Sky ~How to make a shooting star~		優勝	戦争

私が劇作りで大切にしていることは大きく3つある。1つはエンターテインメント性の追求である。‘The Elephant Song’では生徒2人が入った巨大な象、‘The Color of Nature’では鉄の枠組みでできている巨大な絵本を作った。‘The Seasons of Snow’では雪を降らせ、‘Little Shining Star’では体育館一面に星空を表現した。オリジナルの歌やダンスをできるだけ多く取り入れ、音楽を生徒の生バンドで演奏したこともあった。さらに、小学生やお年寄りにも楽しんでもらうためには、字幕も大切だ。挙げるときりがないが、常に生徒と共に楽しみながらエンターテインメント性を追求してきた。これらは、直接審査項目に入るものではないが、見ている人たちをいかに楽しませるかは、作品作りの過程で大切な視点である。また、広報や演出なども生徒が行い、一つの劇団のように活動することで、より多くの生徒が劇の制作に携わることができる。このエンターテインメント性の追求が、劇をより魅力的なものにし、毎年、数十名から100名ほどの有志が集まる理由の一つであろう。

次に、脚本にメッセージ性を持たせることである。ミュージカルの歴史を紐解くと、古くからその作品には、時代時代のメッセージ性が込められていた。そのメッセージが強ければ強いほど舞台に惹きつけられる要素の一つになる。今回の作品では、広島原爆をテーマに取り上げた。戦争を経験していない私がこのテーマを書くことにはかなりの覚悟が必要だった。広島や長崎、沖縄、東京で見聞きしたことを大切にしながら何年もかかって、何度も書き直している脚本である。生徒たちは、この劇に取り組む中で、両国にある東京都慰霊堂（第二次世界大戦や震災で亡くなった身元不明の方々の遺骨が納められている）を訪れ、学びながら演技の練習を進めていった。3年生は、11月に修学旅行で広島を訪れ、実際に見聞きしたことを舞台に生かそうと努力した。伝えたいメッセージを育てながら、何度も練習する。正確に伝えるためには、発音や文法も正確でなければならぬと気づく。伝えたいことを表現するために英語を学習するという動機が生まれ、自然に英語の授業にも力が入るようになる。英語の授業と英語劇が線につながり、さらにその先には、世界に英語で発信する姿が見えてくる。興味深いことは、裏方の生徒にも同じような意識が芽生えてくることである。（アンケートでは裏方の90%以上の生徒が、英語への関心が高まったと答えている。）ことばの持つ力を感じ、それを育てていこうという意識が中学時代に芽生えれば素晴らしいことである。

最後に、人と人とのつながりを大切にすることである。この規模の劇になると一人ではとうてい成し遂げられない。今回の舞台も多くの人たちの協力があった。まず、過去の作品から今回の作品に至るまで、英語劇の有志の活動に参加し、道を作ってくれた生徒たち。本校のような大所帯の活動は、学校としての理解や協力なしには行えない。英語劇が、英語学習を初め、学校生活の向上に役に立っていることを彼らが示してくれたことが、周りの理解につながっている。次に演技指導でアドバイスをいただいた元劇団四季俳優の山崎義也氏、励ましのことばをかけてくださった劇団四季の浅利慶太氏、俳優の方々。発音指導を初め、あらゆる面で協力していただいた両国高校・附属中の英語科の先生達。良き仲間巡り会え、幸せに思う。さらに、よき目標であり、同志である都大会常連校の先生方。そして、毎年素晴らしい英語学芸大会を計画運営していただいている事業部の先生方。挙げるときりがないが、心から感謝の意を表したい。英語劇を通してできた人と人とのつながりには、目に見えない糸を感じる。かけがえのないものとして大切にしていきたい。

英語劇の活動は、ことば本来の持つ力を育て、英語学習に良い影響を与えてくれる。さらに多くの学校が英語学芸会に参加し、大会がさらに発展し、全国規模の大会ができることを願っている。

大会出場にあたって

渋谷区立松濤中学校 教諭 高橋 若美

本校3年生の花谷さんは、本英語学芸大会に出場する前に高円宮杯第61回全日本中学校英語弁論大会に出場する機会を得た。本校からの参加ははじめてであったが、「15歳の今だからこそ伝えたいことを話したい。」と父親に対する自分の思いを素直に表現して、見事全国で6位という素晴らしい結果を得た。

受賞の喜びをゆっくりかみしめる間もなく、10月から始まった予選大会、決勝大会に向けての疲れもあっただろうに、彼女はわずか1週間で、本英語学芸大会のスピーチ“Expanding Horizon”の仕上げ（発表に向けての発音や表現の練習、暗記）をした。高円宮杯のためにと、何本かのスピーチ原稿を書いていた、と言うが彼女の努力、粘りには、こちらが大いに驚かされた。

スピーチ内容は、彼女が母親に“Why must I study English? Nobody speaks English at my school!”とたずねたこと、小学校6年生の時に自分のクラスに転入してきたアメリカ人の少女との出会いや関わりの中で感じたこと、学んだこと、英語に対する自分の気持ちの変化であった。それを自分の言葉で丁寧に伝えていった。スピーチの最後を“As a small child, my parents pushed me to study English. Now, however, I am self-motivated to study English. (中略) English is like a great telescope. My horizons are expanding!”で結んでいた。この表現力の豊かさ！私自身、彼女から多くのことを学ばせてもらった。英語を学習する意義や喜びをスピーチに盛り込んでいたこと、体験、経験を通して学んだことを自分のことばで英語で発信していく素晴らしさ・・・

目標に向かって、日々成長していく姿を間近に見ることができたことも指導者として、とても嬉しかった。

今回、都中学校英語学芸大会においてスピーチさせていただいたことは、大変光栄なことであった。同じ区内の英語科の先生からも多くの助言をいただいた。

①観客とのインタラクト（目線の位置、間の取り方）②すべての語を1つ1つクリアに発音する。③大げさなジェスチャーはいらないが、喜怒哀楽をしっかりと表す。等どれも貴重なものであった。本当にありがとうございました。

(3) 実践研究

事業部 授業力アップ研修会 研究授業

府中市立府中第二中学校 教諭 前川 卓哉

※2009年10月30日に実施予定だった本研究授業は、当日該当クラスにインフルエンザを発症した生徒がいたため、急遽中止となったことを御了承下さい。

1. 単元名

三省堂 *NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 3*
Lesson 5 Places to Go, Things to Do -③ (P.45)

2. 単元の目標

- 分詞の後置修飾・接触節を含む文の意味・形式・用法が理解できる。
- 分詞の後置修飾・接触節を含む文を読んで理解することができる。
- 分詞の後置修飾・接触節を含む文を用いて自己表現ができる。

3. 単元の評価の観点

1	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none">・大きな声で英語を発話しようと心がけているか。・自分の考えを気持ちを込めて伝えようとしているか。・ペアワークなどの活動に真剣に取り組んでいるか。
2	表現の能力	<ul style="list-style-type: none">・自分の好きなキャラクターや物語について、分詞の後置修飾の用法を用いて表現することができるか。・自分の尊敬する人を接触節を含む文章で表現できるか。教科書を正しい発音で音読できるか。
3	理解の能力	<ul style="list-style-type: none">・教科書本文の内容を理解したか。・友達の発表を聞いて理解できるか。
4	言語や文化についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none">・分詞の後置修飾、接触節の用法を理解しているか。・他国の文化についての知識が身についたか。

4. 指導計画 (全7時間)

第1時	<ul style="list-style-type: none">・現在分詞の後置修飾用法の形を理解し、基本的な文を言えて、書けるようにする。
第2時	<ul style="list-style-type: none">・教科書P.44の内容を理解し、正しい発音で音読することができるようにする。
第3時	<ul style="list-style-type: none">・教科書P.44の内容の復習。・過去分詞の後置修飾用法の形を理解し、基本的な文を言えて書けるようにする。
第4時	<ul style="list-style-type: none">・教科書P.45の内容を理解し、正しい発音で音読することができる。・自分の好きなキャラクターや小説、マンガについて簡単なプレゼンテーションをできるようにする。

第5時	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.45の復習。 ・接触節を含む文を理解し、基本的な文を言えて書けるようにする。 ・教科書P.46の内容を理解し、正しい発音で音読できるようにする。
第6時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.46の復習。 ・接触節を含む文を使って、自分の尊敬する人についてプレゼンテーションをできるようにする。
第7時	・Lesson 5 のまとめ (分詞の形容詞的用法、接触節)

5. 本時の目標

- (1) 教科書P.6の本文を、正しい強勢・イントネーション・区切りなどを意識して、音読できるようにする。
- (2) 接触節を含む文を使って、自分の尊敬する人について気持ちを込めて発表できるようにする。

6. 本時の指導展開

指導項目 配当時間	教師の活動	生徒の活動	*留意点・○教具・ ○評価の観点方法等
あいさつ 5分 Greeting Teacher Talk	<ol style="list-style-type: none"> ①元気よくあいさつする。 ②参観者の紹介と歓迎・出欠の確認・週末の予定等を確認する。 ③先月行った修学旅行に焦点を当て、京都ではどこに行ったかという話を展開する。 	<p>元気よくあいさつをする。 拍手で参観者を歓迎する。</p> <p>教師の質問に答える。わからないときは聞き返す。</p>	<p>◎理解の能力(聞く)表現の能力(話す)</p> <p>*全体を必ず集中させ、教師の方を見てから授業を始める。</p>
前時の復習 20分 Teacher Talk Free Pair Work Practice of reading	<ol style="list-style-type: none"> ①旅行というところから発展させ、もしもお金と時間がたくさんあったらどこに行きたいかをたずねる。 ②お金と時間がたくさんあったら友達がどこに行きたいかを調査させる。机間指導して、正しく英語を使用しているかを確認する。 ③インタビューした友人がどこに行きたいかを報告させる。 ④教科書を閉じさせたまま本文のCDを聞き、前時の学習内容を思い出させる。 ⑤教科書の内容についてピクチャーカードを用いながらinteractionを行う。 ⑥教科書のモデル読み(2回) ⑦教科書本文の日本語を一文ずつ順番に言う。 ⑧本文の最初の語句を言い、その一文を音読させる。 ⑨1分間繰り返し音読させる。読み方が分からない単語がある場合には拳手をさせる。 	<p>教師の質問に答える。わからないときは聞き返す。</p> <p>自由に席を立てて英語でたずねる。 A: Where do you want to visit? B: The place I want to visit is Korea.</p> <p>代表の生徒が立って発表する。 The place Sa wants to visit is Korea.</p> <p>CDを集中して聞き、どんなことを前時に学習したかを思い出す。</p> <p>教師の質問に答える。わからないときは聞き返す。</p> <p>教師の後について元気に音読する。 英語に直して音読する。 その文を最後まで読む。</p> <p>1分間止まらずに音読し続ける。読み方が分からない語がある場合は手を挙げて教師を呼ぶ。ペアで音読をする。勝った方は正確な発音を心掛け、負けた方は勝った方が発音する英文を集中して聞き取りリピートする。</p>	<p>◎理解の能力(聞く)表現の能力(話す)</p> <p>◎評価方法は個人を指名し、下位の生徒が答えられれば全員理解できたと判断する。</p> <p>*英文を板書することで、生徒の使う英語をコントロールする。</p> <p>○タイマー</p> <p>○CDプレイヤー</p> <p>○ピクチャーカード</p> <p>*概要を覚えているかに焦点を置くので、答え方は正確な文法を使用していない単語レベルでも構わない。</p> <p>*音読する時は、本を持って正しい姿勢で読ませる。</p> <p>◎表現の能力</p>
Dictation Test	<ol style="list-style-type: none"> ⑩ペアで音読をさせる。ジャンケンをし、勝った方が教科書を見ながら一文ずつ音読する。 		

	<p>負けた方は教科書を閉じて、勝った方の読む文をリピートする。終わったら役を交代する。</p> <p>①モデルとしてボランティア生徒に音読してもらう。</p> <p>②Dictation testを行う。 1 The place I want to visit is China.</p> <p>③正解を黒板に書き、ポイントを確認。</p>	<p>代表の生徒が音読をする。</p> <p>教師の言った英文を書き取る。</p> <p>後ろから用紙を回収する。合っていたか確認する。</p>	<p>*課題点があればそこに対するアドバイスをし、良い部分や挑戦したことを必ず褒める。</p> <p>○テスト用紙</p> <p>◎理解の能力(聞く)</p> <p>◎表現の能力(書く)</p> <p>○黒板</p>
<p>表現活動 20分</p> <p>Presentation of a model</p> <p>Making a script and individual practice</p> <p>Practice Pair work</p>	<p>①生徒自身が尊敬する人について発表するよう指示する。</p> <p>②モデルとして教師自身の例を、写真を見せながら発表し、イメージを持たせると同時に、内容を理解できたかどうかチェックする。</p> <p>③プリントを配布し、生徒には発表原稿を作らせ、作り終わった者には個人練習するように指示をする。机間巡視して質問に答える。</p> <p>④個人練習をさせる。</p> <p>⑤ペアで練習させる。</p>	<p>話を集中して聞く。</p> <p>教師のモデルを集中して聞く。内容に関する質問に対して答える。</p> <p>各自で原稿を作成し、それを見ながら練習する。わからないことがあれば教師に質問する。</p> <p>個人で練習をする。 じゃんけんで勝った生徒ができるだけ原稿を見ないで発表。負けた生徒は相手の原稿を見ながらそれを聞き、わからない発音は教えあう。片方が終わったら交代。発表しない生徒は原稿を見ながらでも可。自分で文を作れない生徒は、教師のモデル文を音読する。 希望者は手を挙げて前に出てきて、何も見ずに発表する。発表後は全員で拍手を送る。</p>	<p>◎表現の能力(話す)</p> <p>*自分のオリジナル文を多く作るよう指示する。</p> <p>○写真</p> <p>○プリント</p> <p>*ペアワークは2種類行うようにする。</p> <p>◎関心・意欲・態度</p>
<p>Stamp Chance</p>	<p>⑥前に出てきて自分の尊敬する人について発表するよう指示する。 発表後、その場で5段階で評価し、よかった点や直すべき点をコメントする。</p>		
<p>まとめ 5分</p> <p>Check of homework</p> <p>Greeting</p>	<p>机間指導して宿題をチェックする。 Stamp Chanceにチャレンジした生徒には評価の数だけハンコを押す。 生徒にはワークブックP.68をやるように指示する。 生徒の頑張りを褒める。 元気にあいさつする。</p>	<p>宿題の箇所のノートを開く。</p> <p>ワークブックをやる。</p> <p>元気よくあいさつする。</p>	<p>◎関心・意欲・態度</p> <p>○はんこ</p> <p>*大人数の前でしっかりと授業に取り組めたことを褒める。</p>

7. 今後の課題

(1) Teacher talkの際のinteractionについて

Teacher talkの際に生徒に質問をし、その答えに対して更に言葉を投げかけたり、質問をしたりする。しかし、それだけでは、指名されていない生徒は「今当てられていないから関係ない」という意識を持ちかねない。それを防ぐためには、指名した生徒から引き出した答えに関して、他の生徒に「How about you?」と同じ質問をしてみたり、教師と指名されていた生徒のinteractionを、しっかりと聞いていたか確認するような質問をしてみたりすることが求められる。それにより、クラス全体で個人の発話した英語を共有することができ、個人の発言を尊重する雰囲気を持たせることができる。加えて、その日に学習していく内容にリンクするものを題材として扱うことができれば理想的であろう。

(2) 使用する例文の精選

導入の際に提示する例文、パターン・プラクティスの際に使用する語句、Dictation testで出題する英文などについて、精選が求められる。文法面に配慮することは勿論、意味的にacceptableなものか、使用する必然性が日常生活の中である文か、といった部分にまでこだわる必要がある。また、文法的にOK、意味的にもacceptableなものであっても、生徒の混乱を招きやすいもの（例えば一つの例文の中に用法の異なるtoが二つ含まれている等）も、導入の際には避けることが望ましい。

(3) 音読指導に関して

音読は地味だが英語力を向上させるためには欠かすことのできない活動である。しかしながら、その地味さ故に、淡々とやっているだけでは学習者を飽きさせてしまう。それを防ぐために、様々なパターンの音読を実施する必要がある。また、音読の目的を何に置くかということも、音読パターンの手順に影響する。本時においては、後半に行われる「表現活動」を重視しているため、コーラル・リーディングから、ペア・リーディングで教科書を見ずにリピートするという活動につなげている。時間的に余裕があるならば、リード・アンド・ルックアップなどの、本文を見ずに文を再生させる活動を入れても良いだろう。

また、モデルとして生徒に音読をさせる場合には、聞いている生徒に「自分には関係ない」という意識を持たせないために、モデルの生徒に注目させる必要がある。そのためには、モデルの生徒にはしっかりと起立させて読ませるのが望ましい。

(4) 発表へ至る段階について

発表の練習の際には、個人練習→ペアで練習→全体の前での発表という流れが望ましい。それにより、個人から徐々に人前でやるということに慣れさせていくことができるからだ。また、ペアで練習する際には、1通りのペアワークではなく、最低でも2通りのペアで行うことで、他人の前でやるという経験を増やし、最後の発表への橋渡しをすることが求められる。

(5) 発表の評価について

発表の評価については、評価基準を指導者の方で設けているが、発表を1年次から取り入れているならば、その評価を少し厳しめにしておく方が望ましい。容易に高評価を獲得することができれば、発表活動は活発になるかもしれないが、当然発表の質が下がることになり、引いては英語力の停滞（特に上位者）にもつながりかねない。上位者の英語力をより引き上げるためには、「ものすごくがんばってやっと最高評価がもらえた」という感覚を持たせ、モチベーションを刺激してあげることが必要である。

8. まとめ

本研究授業では、テーマとして「授業を構成する活動の役割・配置を考える」というものがあった。当然のことながら、授業を構成する要素にはそれぞれの役割があり、「楽しそうだから」「面白そうだから」といった理由によって、生徒の英語力を伸ばすに当たって無益な活動を入れたり、活動の順番を何も考えずに配置したりすることがあってはならない。研修や研究授業に参加すると、多くの活動のアイデアなどを得ることができる。しかし、それらは何を意図して行われているのか、どういったことを踏まえてその部分に配置されているのか、といった裏側の意図をしっかりと理解し、且つそれが自分の描いている「こんな力を持った生徒に育てたい」という像に必要なものかどうかを熟考した上で、自分の授業に取り入れて、授業を構成していく必要があるだろう。

細かい部分で言えば、今後の課題の項でも触れたTeacher talkで扱う題材、例文の精選、音読の手順などもその一つであろう。こういった細かいパーツに目を向け、そういったことを含んだ様々な活動を配置しつつも、それらの中に一本の線が通った授業を作り上げていくことが必要である。

(4) 実践研究

東京都教職員研修センター
東京教師道場の魅力
20道場 中学校外国語（英語）第1班

助言者 墨田区立鐘淵中学校 角田 幸彦

1 東京教師道場とは

児童・生徒のために自身の授業力を向上したいと切に願っている若手、中堅教員からなる部員（20道場では14名）と、先輩方から受け継いだ英語教育の理念と自己の実践を若い世代に伝えなければならないと強く感じている助言者（同4名）、さらに豊富な指導経験、研究経験をおもちの教授（同2名）によって行われるとてもexcitingで速効性のある2年間の研修である。

2 指導案作成と事前協議

毎月行われる授業研究では、授業者は2週間前までにwebメールで指導案を公開し、その内容についての事前協議が行われる。初めのうちは助言者による指導が主であったが、2年目からは部員同士での意見交換も活発になった。さらには他のグループ、班からの意見や質問も多くなり、指導展開については助言者の指導がほとんど必要ない状況にまでなった。これは部員同士の人間関係が深まったこともあるが、授業への理解が深まり、指導案がより具体的に授業内容を表すようになったために、事前協議がしやすくなったと考えられる。

授業は練り上げられた指導案に沿って行われるので、参観者は具体的なイメージをもって授業に臨むことができる。また、指導案には「授業観察の視点」（授業者が自己の課題としている点、指導・助言を得たいと思っている点）を記載することになっているので、ポイントを絞って授業を参観することができる。

3 研究協議

ここでは通常の研究授業後の協議会でありがちな、気まずい沈黙やオブラートに包んだような発言は一切ない。目の前で行われた授業に対する鋭い指摘が飛び交う。しかし、冷たい雰囲気には決してならない。なぜなら、参加者全員の気持ちが「お互いに切磋琢磨して授業力を向上したい。」という1つの方向へ向かっているからである。その証拠にほとんどの指摘には「自分ならこう指導する。」という代案が示される。他の部員によって代案の代案が示されることもある。この本音での協議は授業者はもちろんのこと、部員全員にとって授業力向上の源となっている。

4 まとめ

2年間の研修はこれからの教員人生を変えるものになるに違いない。自身の授業力向上のため、そして生徒たちのために1人でも多くの先生方がこの東京教師道場の門を叩いてくださることを望んでやまない。

(5) 実践研究

教師道場は貴重な経験の場

～中学校英語部会から～

御蔵島小学校 教諭 栗本 直子

「これからは英語（外国語）の時代だから、ぜひ道場に行って勉強してきなさい」と、2年前学校長から背中を押していただいた。私は御蔵島という小さな島嶼の小学校に勤務している。全校児童19名、併設の中学校生徒7名、計26名の小さな学校である。島嶼では研修は日帰りでは不可能で、研修に行ける機会が少なく同じ教科や地区で集まるような研修会もほとんどない。その結果情報が不足がちとなり、都内の実態が伝わりにくい面もある。そこで、教師道場で研修しようと決心した。

しかし、20道場にはまだ小学校英語部会が設立されていなかったため、センターのご好意で中学校部会に入れていただいた。3日も学校を空け小学校の先生方にも迷惑をかけてしまう分、学校に還元しなければとの思いでずっと取り組んできた。

助言者の先生の授業は、テンポがあり流れるようだった。協議会では、中学校英語の専門用語が飛び交っていた。初めのうちは、分からない言葉を書きとめ、後で調べてやっと理解できるという状態だった。皆のように、もっと深い話がしたいと、ずっと歯がゆく悔しい気持ちがあった。しかし、同じ道場の組・班の方々はとても親切で、そんな私に一つ一つ声をかけてくれ、分からないことも教えてくれた。このような温かい仲間とだからこそ、一緒に研修を続けることができた。

小学校外国語活動担当の立場から中学校の英語を見ると、共通する部分の接続で、とても有意義な研修を行うことができた。一つは、道場では毎回授業を通して学び合うので、中学校の授業の実態を目の前で知ることができる、ということである。挨拶の仕方、開本までの活動パターン、流れやつながりに重きを置いた授業展開等数年後の子どもたちが受ける授業の様子を直に経験することができた。もう一つは、異校種を意識しながら授業を考えることができる、ということである。実態を知った上で授業を組み立てると、系統性が見え、小学校の外国語活動とのつながりと今後の子どもの学習の筋道とを考えつつ、授業計画を作ることができた。

天候によっては、島を出られず道場に参加できないこともあった。しかし、いつも道場メールを使って事前の指導案検討を何回も行い、様々な部員、助言者の方からアドバイスをいただけたので、毎回は有意義なものとなった。本当に道場に参加してよかったと思う。この2年間学んだことを生かした授業を展開し、道場での成果を発揮していきたい。

(6) 実践研究

小学校外国語活動の実践

練馬区教員委員会教育指導課 統括指導主事 五十嵐浩子

1. 練馬区における取組状況

練馬区では、昨年度までは総合的な学習の時間等における国際理解教育の一環として各校の目標に基づいた英語活動の実践が行われてきた。英語ノートの配布により、今年度は全小学校の第5、6学年が外国語活動に取り組んでいる。実施時数は、平均25時間である（文部科学省調査では、28.2時間）。本区の指導体制は、学級担任と外国語活動指導員※（以下「指導員」）のチーム・ティーチングである。各校では、中核教員養成研修（都教委主催）や各種研修会の成果を校内研修に生かしながら、児童の実態に応じて外国語活動が実践されている。

※指導員 練馬区在住で、つぎの各号のいずれかに該当する者 ①小学校または高等学校の普通免許状を有し、英検2級以上を有する、または同等以上の能力を有する。
②海外在住経験がある。③英語指導経験がある。

2. 外国語活動にかかる

本区では、移行措置期間につぎのような事業の実施や委員会の開設を通して、外国語活動の充実に努めている。

- (1) 外国語活動モデル校指定（平成21年度新規事業 4校指定、35時間実施
授業公開各校2回、年間4回講師派遣）
- (2) 指導計画資料作成委員会（資料作成の対象：道徳、総合的な学習の時間、特別活動、外国語活動）
- (3) 小学校外国語活動研修会（教員対象、指導員対象）
- (4) 練馬区教育研究員（教育課題・領域部会 小学校外国語活動）
- (5) 小学校教育会（平成21年度、外国語活動部会が新たに設けられる）

3. 指導計画資料作成委員会

ここでは、指導計画資料作成委員会の実践例を掲載する。

今年度から、道徳、総合的な学習の時間、特別活動が先行実施されている。本区では、新学習指導要領の趣旨を具現化した全体計画や年間指導計画等を示すことで各校の教育課程編成を支援するため「指導計画指導資料」を作成し、小学校外国語活動についても趣旨、年間指導計画、実践、評価について記述している。

【実践例】

(1) 単元 「数で遊ぼう」 (英語ノート1 Lesson 3 第4時)

(2) 目標 数を扱ったゲームを、友達とやり取りしながら楽しむ。

(3) 指導の工夫

- ・おはじきの数を予想したり、実際に数えたりする活動を通して、20までの数の言い方に慣れさせる。
- ・足し算の答えを英語で言う活動を通して、他教科との関連を図りながら、外国語活動に興味を持たせることができる。
- ・数を予想させたり、何度も言わせたりすることで、発話量を増やす。

(4) 展開

	学習活動	HRTの指導	指導員の指導	・指導上の留意点 ◆国語理解の視点 ◎評価の観点
導 入	2. 英語のかけ声で、ALTとじゃんけんをする。 3. “Ten Steps” “Twenty Steps”を歌う。(10分)	・指導員とじゃんけんするよう指示する。 ・数字カードを示しながら、一緒に歌う。	・指導員対児童でじゃんけんをする。 ・“Ten Steps” “Twenty Steps”を歌う。	・ジェスチャーをつけたり、歌い方を工夫したりする。
展 開 1	4. 数当てゲームをする。 ・グループになり、1人ずつ交代でおはじきを取り、数を当てる。(10分)	・ゲーム内容を説明する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・デモンストレーションをする。 ①袋の中のおはじきをつかんで取る。 How many? ②いくつあるか予想する。 みんなで数を数える。 </div>	・1～20までの数を発音する。	・説明するだけでなく、指導者がおはじきを使ってやり方を示す。全員に予想させ、ゲームへの興味をもたせるようにする。 ◎数を予想したり、数えたりしている。 (行動観察)
	5. 足し算ゲームをする。 ・相手を見つけて、じゃんけんのように両手の指で数を出し、お互いの数を足し算して英語で答える。勝ったらシールをもらえる。(17分)	・ゲームのやり方を説明する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・デモンストレーションをする。 A : Hello. B : Hello. A B : How many, how many, one, two. (A : eight B : seven) B : Fifteen! (早く答えた方が勝ち) A : Here you are. (勝った人にシールを渡す) B : Thank you. See you. A : See you. </div>	・HRTと一緒にやり方をデモンストレーションで示す。	・シールをもらえるようにして、できるだけ多くの友達とゲームができるようにする。 ◎積極的にゲームに参加し、足し算をして答えている。(行動観察・カード) ◆英語での足し算の言い方を知って、同じような足し算の言い方に気付くようにする。

(7) 実践研究

事業部 サマーワークショップ

府中市立府中第二中学校 教諭 前川 卓哉

事業部主催のサマーワークショップは、平成21年8月20日(木)、文京区立第一中学校を会場として開催された。参加者は37名であった。

今年度の講師は、教師道場で2年目の研修をしている谷所篤教諭(大島町立第二中学校)と百合野麻莉教諭(青梅市立第六中学校)、そして横山牧子教諭(狛江市立第一中学校)にお願いした。また、午後の部の初めには、インドのボンベイ日本人学校に勤務中の鈴木悟教諭が、写真を見せながらインドの様子を紹介してくださった。

○谷所 篤 教諭(大島町立第二中学校)

「教師道場で学んだこと」をテーマに、特にオーラルイントロダクションからリプロダクションまでについて、研究授業での学習指導案に基づいて、具体的に説明してくださった。

教師道場では、メールを活用して、学習指導案の検討をしている。助言者のアドバイスに従って、最初に作成した指導案が、研究授業のときにはどのように変わったのかが、とてもよくわかった。リプロダクションにつなげるために、オーラルイントロダクションでどのような表現をインプットしたらよいのかなど、授業を組み立てる上で参考になることが多かった。

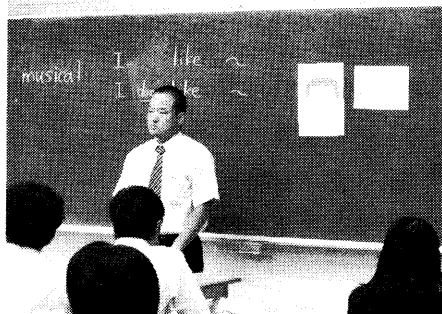
○百合野麻莉 教諭(青梅市立第六中学校)

「教師道場を通して得たこと」というテーマで、こちらも研究授業のときの学習指導案に沿って、50分の授業の組み立てをどのようにしているかを、具体例を中心に話してくださった。

新出文法事項の導入では、その表現を使う必然性のある場面を設定することや、オーラルイントロダクション(インタラクション)は音読への橋渡しになるような工夫をするなど、授業のポイントを確認することができた。

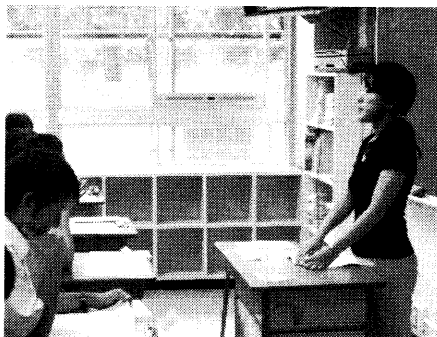
百合野教諭も、最初に作成した指導案が、研究授業のときにはどこがどのように改善されたか、わかりやすく説明してくださった。なぜこの活動を行うのか、ここでどのような仕掛けをしておくか、あとの活動につながっていくかなど、われわれが留意すべき点がよくわかった。

写真 1



谷所教諭

写真 2



百合野教諭

○横山 牧子 教諭（狛江市立第一中学校）

「生徒が力をつける授業作りのポイント」というテーマで、これまでの実践に基づいて発表していただいた。

横山教諭は、音声を重視した授業を展開している。そのために、授業のいろいろな場面で工夫をしているが、新しい試みを授業に取り入れるとき、注意すべき点として、次の3つをあげている。

- ①その活動の目的を考え、それが最終的にどのような能力に結びつくかを考慮した上で実施する。
- ②取り入れた活動は、必ず継続的に行う。
- ③自己満足に陥らないように、その活動についての意見をアンケート形式で、生徒に問いかける。または、英語科の先生方に意見を聞く機会を持つ。

それから、warm-up の実践例として、dictation とマシガンQ&Aを、ワークショップ形式で紹介した。活動を取り入れるときに、生徒が力をつけるためにはどのようなところに注意すればよいか分かり、2学期からの授業ですぐ使える実践であった。

今回のサマワークショップでも、講師と参加者、また、参加者同士のネットワーク作りができたと思う。会場の都合で、参加をお断りした方もいらっしゃったが、来年度も多くの方々に参加していただき、日頃の授業に活用していただきたい。会場を提供くださった文京区立第一中学校の先生方に、お礼を申し上げたい。

写真 3



ワークショップ

総務部報告

(総務部長 飯島 光正)

本年度も各部、地区幹事、部長名簿を作成し、全都の地区部長、地区幹事に配布した。また、年間事業は右記の通りである。

①の定期総会は例年と同じように多くの参加者を集うねらいで、時間帯を遅らせた。また、昨年度に引き続き講演会は行わなかった。

②は、全英連中学部が主催し、本年度で4年目を迎えた。

③の都中英研部長・幹事会は昨年度以上の参加者を集うため、準備期間を長くして取り組んだ。その結果、昨年以上の出席者で実施できた。今年度のテーマは教育課程の移行期間にあたることも併せ、「新学習指導要領完全実施に向けて」とし、東京外国語大学教授の根岸雅史先生をお招きし、小学校英語活動との接続にも触れていただき講演会を開催した。

④10月17日(土)、18日(日)には、全英連東京大会が日大百周年記念館で行われ、総務部では受付のお手伝いをした。

⑤の関プロ埼玉大会は11月13日(金)に埼玉県所沢市で行われた。昨年同様大会が1日開催となった。今年度は「国際社会の中で生きる心豊かな生徒の育成」—コミュニケーション能力の基礎を養う育成を通して—を主題に開催された。東京からは、「話すことを中心としたコミュニケーション能力の基礎を養う指導」—卒業時の到達目標を明確にした段階的指導を通して—を

研究主題に江東区立深川第五中学校の各務公仁余先生より前任校からの実践に基づいた提案があった。また、東京教師道場教授の山本展子先生には指導助言を頂いた。関プロ大会への参加者は昨年に比べ若干増加し、20名以上の参加者になったが、参加者を多数集めることを総務部の今後の課題として取り組んでいきたい。ちなみに次年度は11月13日(金)に東京大会を足立区で実施する。事務局としても働きかけを工夫改善して行いたい。少人数制指導等に伴い、先生方がなかなか現場を離れられない状況や出張の許可が下りない実態を各地区から頂く。今後、研修や研鑽の大切さを見直し、先生方が積極的に研修会等に出られる環境作りを考えていくことは都中英研本部の責務と捉えている。東京大会では全都から300名以上の参加者を目指していきたい。そのためには、大会案内を各地区で積極的に紹介していただき、一人でも多くの参加者が集まるよう各地区部長・地区幹事の先生方にご協力を頂きたい。

【年間事業】

- ① 5月 定期総会
 - ・資料作成
 - ・受付業務
- ② 7月「第4回全英連中学部研究協議会」
 - ・受付業務
- ③ 各区市町村英語教育研究部長・幹事会
於：豊島区立西池袋中学校
- ④ 全英連東京大会・受付業務
- ⑤ 関プロ東京都事務局
 - ・11月関プロ埼玉大会参加事務
(大会案内の発送、大会申し込みの受付等)

事業部報告

(事業部長 横山 達也)

1. 第26回授業力アップ研修会

日 時：平成21年10月30日(金)

会 場：府中市立府中第二中学校

授業者：前川 卓哉教諭

講 師：田口 徹主任教諭

(千代田区立九段中等教育学校)

新型インフルエンザが猛威を振るった今年度だったが、授業力アップ研修会もその影響を受けてしまった。研究授業をする予定のクラスが、研修会当日に学級閉鎖になり、授業ができなくなってしまったのである。

予定を急遽変更して、研修会参加者を生徒に見立てて、前川教諭がデモンストレーションを行った。そのあと、田口主任教諭を講師として、研究協議会をもった。

本時のねらいは、接触節を用いて、自分の尊敬する人について発表することであったが、デモンストレーションでは、The place I want to go is... という文型を中心としたoral interaction を行った。

研究協議会では、研究授業で予定していたことを中心に、活発な質疑応答があった。授業を見ることはできなかったが、どのような活動をこれまで積み重ねてきたかが、参加者によくわかったことと思う。

2. 第62回東京都中学校英語学芸大会

日 時：平成21年12月6日(日)

会 場：東洋学園大学

本郷キャンパス1号館

東洋学園大学を会場として2年目の英語学芸大会であった。参加校の先生方をはじめ、スタッフの協力により、スムーズに進行することができた。

Closing Ceremonyでは、東洋学園大学の原田副学長が特別賞を授与して下さった。東洋学園大学の方々には、この場を借りて、お礼を申し上げたい。

大会記録

スピーキングの部 (参加12校)

1位 Expanding Horizon

花谷奈津子

(渋谷区立松濤中学校)

2位 My Identity

本 信穂

(杉並区立井草中学校)

プレイの部 (参加11校)

1位 Under the Same Sky

～How to Make a Shooting Star～

都立両国高等学校附属中学校

2位 Singing Spirits

東京学芸大学教育学部附属

小金井中学校

3位 Pinocchio

江東区立深川第三中学校

特別賞 The Cat Who Wished to Be a Man

練馬区立田柄中学校

審査員 Mr Edward Weinzierl (ALT)

Mr Jun Kodama (英検)

Mr Masayoshi Fukui

(港区立港陽小学校校長)

調査部報告

Communicaton Test を終えて

(調査部長 重松 靖)

◇平成21年度実施状況

平成21年度中英研コミュニケーションテストが多くの先生方のご支援とご協力を得て実施することができたことにまずは感謝いたします。

今年度の実施状況は以下の通りである。

2年 3,034人 (33校)

3年 3,104人 (35校)

総計 6,138人

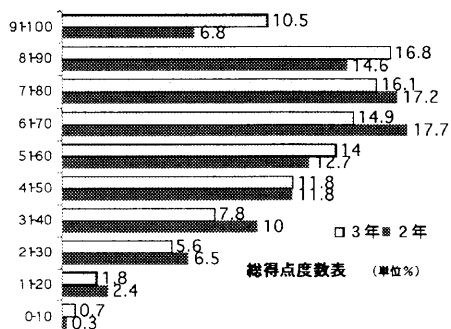
延学校数 68校

学校数 44校

昨年度と比較すると学校数では14校、生徒数でも約2,000名減となってしまう、数年続いている減少傾向に歯止めをかけることができなかった。問題の質をさらに向上させるとともに、年度末のPR活動を積極的に行いたい。

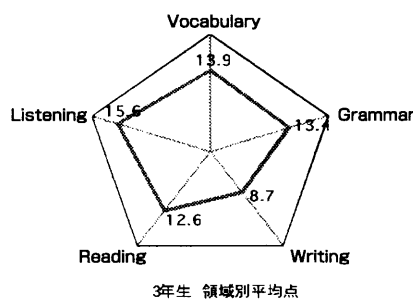
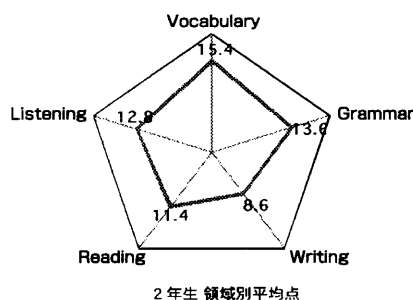
実施校からのアンケートでは「バラエティに富んだ問題で良かった」「良問であった」などの評価も頂戴しているが、「Readingの問題が多すぎる」「他の問題に比べ、語彙の問題が易しすぎる」「Listeningのスピードが速すぎる」「Listeningには例題を入れてほしい」等々、貴重な感想やアドバイスをいただいた。調査部では、現在次年度のスペック（問題構成）を大幅に変えることを考えており、是非参考にさせていただきたい。

今年度、2年の平均点は61.8、3年は64.1であり、得点の分布度数は次のようになっている。



分析では、信頼性係数（テストの安定性）が2年、3年ともそれぞれ0.89、0.91となっており受験者群には適当なものであったとのことである。

尚、学年ごとの領域別平均点は次のようになっている。



各学年ともWritingに課題があることがわかる。たとえ短くとも、意味のある英文を書く活動を継続することが大切ではないだろうか。

また、2年のListening、Readingとも3年と比べて低い。未習語が多いこともあるかもしれないが、自然なスピードで話される英語を聞く練習や、文脈や場面・イラ

スト等から未知語の意味を類推する力を育成することは、これからの英語学習にとって大切なことである。

◇定期テスト問題作成へのヒント

我々調査部員は問題を作成するにあたり、次のような点に留意している。これらの視点は定期テスト作成時にも必ず役立つはずなので、是非参考にさせていただきたい。

①テストポイントの明確化

良いテストとは、テスト後に生徒自身が何が理解できていて何が不十分なのかがはっきりと分かるものでなくてはならない。そのためにも、問題ごとにテストポイントを明確に示すべきである。入試問題に見られる「長文総合問題」は定期テストには不向きである。

②目的にあった出題方法

語順の定着度を見たいならば、英文を書かせるのではなく、記号による並べ替えで十分である。Listening の力を測るのであれば、英文を読んだり、書いたりする問題は不適である。目的にあった出題方法を工夫しなければならない。

③目的に合った採点基準

たとえば「書く力」を評価するときには文法の正確さを中心に減点法で評価してはいいだろうか。文法や綴りの誤りがあったとしても、意味が通じる、さまざまな語彙を使おうとしている等、いろいろな観点から評価をしてあげたい。

④自然な場面の明示

Reading の問題では、誰がどういう場面で読むのか、Listening ではなぜ聞かなければならないのか、等々自然な場面を明確に示すことが大切である。コミュニケーションを実感できる問題づくりに努めたい。

◇テスト参加へのお願い

コミュニケーションテストは、実際の生活場面を考慮し、そこで使われている言語をできるだけ多く扱い、自然で適切であることを心がけ、コミュニケーション能力を測る工夫をしている。結果は個人成績票で返還される。個人票には、5領域別に各自の得点と自校の平均点が棒グラフで表示されているので、生徒には自分の反省点が明確になる。また、教師には授業での指導の改善に役立つはずである。

22年度テストへの参加を重ねてお願いすると同時に、年度当初にテスト参加費として、生徒1人280円の予算の計上を是非お願いしたい。

◇最後に

本年度もご多忙なか、ご指導くださった東京外国語大学教授根岸雅史先生と手弁担当のこもった検討を重ねた調査部員に心より感謝申し上げます。



研究部報告

～生徒がアウトプットした
重要動詞のコロケーション調査～

(研究部長 北原 延晃)

1 主な活動

4月

組織作り、研究方針討議

5月

研究内容決定、研究開始。夏の語い
指導ワークショップ計画検討

6月

Picture describing実践報告などの研
究活動。公開授業者決定。全英連東京
大会で発表する研究部員のバックアッ
プ体制確認。

7月

研究活動。夏のワークショップ最終確
認。H22年度関ブロ東京大会分科会発
表者決定。

夏休み

研究活動。語い指導ワークショップ
(日野学園、高島三中、銀座中)参加
者合計約200名。

9月

研究活動。夏のワークショップ反省。
全英連東京大会での役割分担確認。

10月

研究活動。研究冊子原稿分担。

11月

研究活動。研究冊子原稿検討。公開授
業指導案検討①

12月

研究活動。研究冊子原稿最終検討。公
開授業指導案検討②

1月

研究冊子原稿校正。公開授業指導案検
討③

2 今年度の研究

今年度はPicture Describing活動を通し
て、教師がこれまでに指導した重要動詞の
コロケーション表現を生徒がどれだけアウト
プットできたかを調査した。具体的には
生徒が発話したデータを持ち寄り、分析を
加えた。その結果、次のようなことがわか
った。

①絵を説明するとき、必ずと言ってよ
いほど使用される動詞がある。(wear,
have, sit, talk, stand, walk, see, look,
等)まずはこれらの動詞とそのコロケー
ションの指導を必ず事前に行う必要が
ある。

②既習の絵を使った場合、学習してから
時間が経過しているものは身についた
と考えられるが、学習直後の場合は短
期記憶にあるだけの可能性がある。

③初見の絵を使用する場合は生徒の想像
力を働かせることができる。

④使用する絵は、人物が多く、動きがあ
り、風景があるものがよい。

公開授業では研究部員の岡崎伸一教諭
(品川区立小中一貫校日野学園)が8年生
(中学2年生)の授業を公開した。大勢の
参加者から活発に質問や意見が出された。

研究についての詳細は研究部ホームページ
(<http://www.eigo.org/kenkyu>)を参照
されたい。「都中英研研究部」で検索可能)

プロジェクト・チーム部 活動報告

(プロジェクト・チーム部長
石川 賢司)

今年度は、いままでの研究を見直し、どのようにプロジェクトを進めていくかを検討した。

過去の研究テーマを振り返ると、平成19年度は「これからの英語教育の方向性」とし、選択教科の英語授業についてアンケートをとり、検証した。平成20年度は「音読からスピーキングへの指導」という具体的なテーマを設定し、音読指導の方法について教育の工夫があり、さまざまな研究がなされているが、スピーキングの指導として、スピーチの指導は広がりが見られるが、生徒自ら発話する、あるいはやりとりをする、しかもImpromptuな発話を含む、といった会話活動はなかなか指導が難しく、指導のプロセスが見えにくい。音読とスピーキングの間には何があるのか、何が必要なのかを探り、指導のプロセスを明らかにし、具体的に教室で使える指導方法を研究した。

今年度は、学習指導要領の移行措置を踏まえ、平成21年度は「小学校英語活動と中学校の英語指導について」をテーマとし、小学校での英語活動がどのように児童に影響を与え、表現活動としての英語をとらえているのか。また、中学校の授業で小学校の英語活動がどのように影響をし、生徒の意欲・関心に作用しているのかを検証した。

一方、日本の英語教育だけでなく、海外の初期英語教育はどのように行われているのかという視点でオーストラリアの小学校

でのイマージョンプログラムについて、立教大学の先生を講師として招いて講演をしていただいた。

イマージョン教育は、言語学習を中心としている教育方法とは違い、言語以外の科目のカリキュラムを第二言語で教える。授業時間の50%以上は目標言語で行う。イマージョン教育の良い点は、①言葉の能力を高める。②メタ認知能力を高める。③知識能力を高める。④第一言語能力を高める。⑤他人への思いやりと協力の心を養う。⑥個人の学習に対する責任の向上となる。⑦自分に自信をもつことができる。などわかりやすい講演であった。

現在、日本でもいろいろな学校でイマージョン教育の取り組みが徐々に行われている。その中には、授業方法やカリキュラム編成など移行措置に対応するヒントがたくさんある。今後、各学校で授業方法の改善や小学校英語活動と中学校英語授業の連携についても多くの示唆を含んでいた。

将来の英語教育を考えた時、わたしたち英語教師は、世界の動きや社会の流れを常に意識し、時代に合う教育をしていかなければならない。学校現場は数々の事務処理や生活指導に追われ、十分な研修の時間や研究を深めていく場所がないのが現状である。プロジェクト・チーム部は、地道に研究を深めていくような長期的な展望をもちさまざまな課題を正面からとらえていく。

出版部報告

(出版部長 池田 武男)

出版部では、例年通り、1学期末と2学期末にそれぞれ「都中英研だより」を発行し、年度末に本誌「都中英研会報」を発行した。これらの機関誌は、都中英研の活動内容を都内各中学校の英語科教員に広く知っていただくとともに、情報交換の場として、英語科教員相互の連携を深め、都の中学校英語教育の一層の充実、発展のために役立たせることを目的としている。そして、これらの機関誌を都内の全中学校及び教育諸機関等へ配布している。予算の都合上、都内全英語科教員への配布がままならない状況にある。その補完のために「都中英研ホームページ」にも連携すると共に、都外へも広く都中英研の活動を紹介するよう努めている。

今年度の活動状況は以下の通りである。

・「都中英研だより」第57号

(7月17日発行)

都中英研会長挨拶、中英研総会報告、中英研年間事業計画、主な研究会協議会の案内、役員紹介、コミュニケーションテスト紹介、その他のお知らせ、等を掲載した。

・「都中英研だより」第58号

(12月3日発行)

関ブロ東京大会に向けて「運営準備進捗状況の報告」、各地区英語研究会の紹介(大田区の取り組み)、各市区町村英語教育研究部部長会・幹事会の報告、その他のお知らせ、等を掲載した。

・「都中英研会報」第68号

(3月上旬発行)

都中英研の年間活動報告や英語教育活動全般のまとめとして、都中英研会長所感、文科省・都教育委員会等英語教育関係所感、英語学会報告、都研修センター報告、各地区活動状況、中英研事業報告、各部活動報告、等を掲載し発行した。

部会は、機関誌の編集会議や発送作業のため年5回開いた。昨年度より試みた都内全市区からの「都中英研会報」各地区活動状況報告を定着するよう、編集作業の効率化をさらに高めた。また今年度は、編集部員の英語教育への識見を高めるため、「新学習指導要領」の実践研究に着手し自己研鑽にも努めた。

第49回 十五大都市公立中学校 英語教育研究会連絡協議会

北九州大会

開催日：平成21年10月16日

於：小倉リーセントホテル

「ALTを活用した授業改善の研究－学力向上をめざして－」をテーマに協議された。

1 情報交換

関係各都市の研究会の組織とその活動の報告があり、研究・研修に関する現状と課題、ALT配置、小学校との具体的な連携、若手の育成等についてそれぞれ課題を抱えながら新学習指導要領（以下、COSと記す）の完全実施に向けて課題解決を目指し、授業改善を図っている状況が示された。

2 特色ある実践報告

広島市と北九州市から実践報告がなされた。

- (1) 広島市からは「生徒のやる気を高める授業づくり」と題して、授業のデザインについて、COSが示す目標とその柱を踏まえ、具体的な提言がなされた。生徒に「活用(output)」させるために指導者が明確な目標意識をもつことを授業デザイン力とし、楽しい授業展開と授業規律確立のために生徒のあるべき姿を明確にした上で、授業の基本事項を教師が意識することから話したい雰囲気づくりの重要性を強調した。また、発音・語彙・語順を基礎力とし、英語を使いこなすための工夫等を具体的に発表した。生徒像や目標を明確にして、シラバスデザインを構築することにも貴重な示唆となった。
- (2) 北九州市からは「Team-Teachingをより効果的にするために」との主題で、北九州市教委の施策とALT活用に係る研修等の報告があり、具体的な

実践として独自に開発した小中連携英語教育プログラムの活用を通して「聞くこと」「話すこと」を工夫しながら繰り返して楽しく学習することを目指している。中学校の実践紹介では、現在まで取り組んでいる具体的な活動の工夫例やフォニックスに関して質問紙調査を行い、授業改善を図っていることが報告された。

3 講演 「喜びのある英語教育の視点 －小・中・高・大学における 授業改善の『実践』を通して－」

講師 西南女学院人文学部英語学科
大里 文人 教授

三点を報告する。教育と研究の位置付けとして、教育実践学的視点と実証的視点について、前者は教育は実践的な活動であり、実践から理論への方向性を大切にしながら実践と理論の統合化を目指すものであること。後者は授業分析による授業改善と評価である。所定のカテゴリーに基づいて教師の発話等の分析により改善・充実を図るものである。これらは指導者として基本とする必要がある。次に自作教材の指針として、身近な場面設定、四技能のオールラウンドな育成、伝達重視content-based instructionの重視、学習者中心の内容選択と対話化、内容語content wordと機能語function word、Practice makes perfectの重視等をあげている。三点目に、中学校英語教育の問題点と今後の課題として、①小中連携の視点から小学校での学習履歴の把握、②教科書の題材や言語活動の工夫に基づく「活用力」の育成、③自発的学習者autonomous learnerを育てる、「自分で分かった」「自分でできた」という有用感が基礎基本の定着や学力向上につながる。

これらは実践研究に基づく豊富な資料提供から示された。平素の授業の充実のために日々指導者として留意すべきことが具体的に示された。

(文責 板橋区立西台中学校長 阿字宏康)

2009
第59回 全英連総会
全国英語教育研究大会
(東京大会)

大会コンセプト

「世界に発信できる若者を育成する英語教育」
—小学校から大学までの英語教育を視野
に入れ、4技能を総合的に身につけ活
用できる英語力を育成するための指導
について方向性を探る—

時：平成21年10月17日(土)・18日(日)

場所：日本大学文理学部及び文理学部
百周年記念館

① 第1日(総会/記念講演/小学校ビデオ発表/中高授業実演/合評会)

総会に引き続き、ウエストミンスター大学から招聘されたHugh Dellar氏が記念講演(「Making the Leap from Grammar to Lexis」)を具体例に触れながらおこなった。氏はまず基本的理論について述べられた後、文法中心の教授法であることばの説明を越えて、どのようにことばを日常使用するか等体験にもとづいた役立つ例文をたくさん提示しながら語られ、貴重な示唆を与えていただいた。

午後、大田区立道塚小学校山本恵美子校長からまず学校紹介があり、その後児童一人ひとりが活躍する小学校外国語活動の取り組みのようすがビデオ発表された。スクリーンからは担任の保科千恵美先生の英語による指導が熱く伝わってきた。

授業実演が昭島市立瑞雲中学校1年生(授業者 相沢秀和教諭)、千代田区立九段中等教育学校4年生(授業者 郷 薫教

諭)によりステージでおこなわれた。いずれも生徒の緊張感と生き生きした表情が伝わった。

また、その後におこなわれた合評会では駒沢女子大学太田洋准教授、神奈川大学久保野雅史准教授を指導助言者としてそれぞれおこなわれ、フロアからの質問や意見が出て、実りある意見交換がなされた。

② 第2日(分科会)

第1部 小学校1分科会、授業実演者を含めた中学校4分科会、高校3分科会、共通2分科会

第2部 小学校英語と連携したテーマをふくみ中学校4分科会、高校4分科会、共通2分科会

その後、5ワークショップが各会場にわかれて活発に実施された。

※今大会は新型インフルエンザが国内的にも猛威をふるった時期での開催となり、授業実演においても欠席者が発生した。小学校の外国語活動がビデオ発表され、児童が生き生きと英語を使って活動しているようすから今後は更に小学校英語と密接に連結することが重要であると感じられた。

そして音読指導、書くことの指導、語彙指導に加え、文法指導、辞書指導など普段の授業に生かせる実践例、いっそう効果的にすすめる方策などを知ることができ、参加者にとっては収穫の大きい大会となった。(副会長 江東区立南砂中学校 清水研一郎)

第33回 関東甲信地区中学校 英語教育研究会 埼玉大会

研究主題

「国際社会の中で生きる心豊かな生徒の育成」

～コミュニケーション能力の基礎を
養う指導の工夫を通して～

期日：平成21年11月13日

会場：所沢市民文化センター

埼玉大会は所沢市民文化センター大ホールで全体会が行われた後、3分科会に分かれ第1分科会はと所沢市立中央中学校、第2分科会は所沢東中学校、第3分科会は所沢市立安松中学校でそれぞれ開催された。東京は第1分科会の担当となり、「話すことを中心としたコミュニケーション能力の基礎を養う指導と評価の工夫」をテーマに江東区立深川第五中学校の各務公仁余教諭が発表を行った。以下、全体会と第2分科会の概要を報告する。

1 大会主題設定の理由

本大会では、義務教育終了までに身に付けさせなければならない「コミュニケーション能力の基礎」を育成できるよう、学習指導要領における外国語科・英語の目標に照らし、3年間を通じてどのような生徒を育てたいか、その具体的な生徒像の研究を始めた。具体的な取組として①「話すこと・書くこと」を中心としたコミュニケーション能力の基礎を養う指導と評価の工夫、②「書くこと・読むこと」を中心としたコミュニケーション能力の基礎を養う指導と評価の工夫、③小学校段階で育成されたコミュニケーション能力の素地を踏まえた指導と評価の工夫、を掲げた。

これまでの学習指導要領における外国語科及び英語の目標に照らし、3年間を通じ

てどのような生徒を育てるのか、その具体的な生徒像を示すことは、埼玉県中学校英語教育研究会において以前から課題にしてきたところである。そして、各学校が生徒や地域の実態に応じて学年ごとの目標を適切に設定し、計画的な言語活動の工夫を通し、コミュニケーション能力の基礎を養うことが、国際社会に生きる心豊かな生徒の育成につながると考え、本主題を設定した。

2 記念講演

講師：東京学芸大学 教授

金谷 憲先生

演題：「中学校英語役どころ」

【講演要旨】

金谷先生からは冒頭より「先生は元気であってほしい」と中学校英語教育に従事する私達に励ましの言葉をいただいた。新学習指導要領で明記された小・中・高の校種別目標を掲げ、中学校ではコミュニケーション能力の基礎を養うことに触れられた。先生流の全体目標や校種別目標は以下の通りである。

(全体目標)

小・中・高を通して、中学校程度の英語を自由に使える。

(校種別目標)

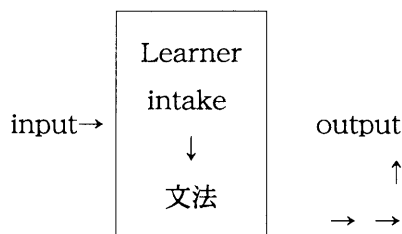
小学校→英語に触れる(慣れる)

中学校→基礎の導入とある程度の定着

高校→基礎の定着

ここでいう基礎とは、中学校で習うことであり、特に語の並べ方が大切である。さらに目的と手段(本質と演出)についても述べられた。

基礎を定着させるために、様々な活動を通し、英語を生徒に十分使わせることが大切である。さらに以下の言語習得メカニズムを揚げられた。



input・・・注意を向ける・理解する

intake・・・繰り返す

output・・・スピードを伴って使う

最後に中学校が中学校英語の役割を果たすためには、

1. トレンドに流されない。
2. 学習実績を把握する
3. 基礎練習を楽しく行う
4. 教育現場での研究を継続・蓄積・共有する。

3 第1分科会提案概要

東京からは各務公仁余教諭が「話すことを中心としたコミュニケーションの基礎を養う適切な表現を選択して、話すことができる力を高める指導と評価」を「卒業時の到達目標を明確にした段階的な指導を通して」との副題のもとに次のような要旨で発表した。

(1) 主題設定の理由

- ① 衝撃から第一歩へ
- ② 卒業時の生徒像から中期的目標を
- ③ 生徒の実態から「話すこと」を重視へ

(2) 研究の概要（具体的な実践例）

- ① 3分間英語だけで会話が継続できる生徒
- ② 2分間相手とやりとりしながらのプレゼンテーション

(3) 成果と課題

各務先生は本年度江東区に異動されたばかりで、昨年度まで東久留米市で教鞭を執られていました。東京教師道場生として活躍する中、3年間で系統づけた指導を確立しました。実際の生徒の活動をビデオで紹介する等、段階的指導がよくわかった発表でした。また、自らの授業力を磨き高めようとする意欲や熱意を十分に感じられる発表でもありました。

(豊島区立西池袋中学校長 飯島光正 記)

各地区の活動状況

千代田区	35左	昭島市	49右
中央区	35右	調布市	50左
港区	36左	町田市	50右
新宿区	36右	小金井市	51左
文京区	37左	小平市	51右
台東区	37右	日野市	52左
墨田区	38左	東村山市	52右
江東区	38右	国分寺市	53左
品川区	39左	国立市	53右
目黒区	39右	福生市	54左
大田区	40左	狛江市	54右
世田谷区	40右	東大和市	55左
渋谷区	41左	清瀬市	55右
中野区	41右	東久留米市	56左
杉並区	42左	武蔵村山市	56右
豊島区	42右	多摩市	57左
北区	43左	稲城市	57右
荒川区	43右	あきる野市	58左
板橋区	44左	西東京市	58右
練馬区	44右	羽村・西多摩	59左
足立区	45左	大島	59右
葛飾区	45右	八丈島	60左
江戸川区	46左		
八王子市	46右		
立川市	47左		
武蔵野市	47右		
三鷹市	48左		
青梅市	48右		
府中市	49左		

千代田区

I. 研究主題

「少人数習熟度別授業における教材の開発及び評価の研究」

II. 研究の経過

◇4月

千代田区一斉部会

◇5月

英語部会 組織作り・研究テーマ・研究計画決定

◇6月

研究授業 小林恵美子 教諭

ALT Evelyn (麹町中) 1年生を対象にT-Tによる英語入門期のCommunicative Approach自己評価の工夫

講師：区教委指導主事

教育研究所調査員

小学校の英語指導担当教諭も交え、教材研究・指導方法・評価の工夫について協議した。

◇7月

英語部会 区内中学校の定期考査の問題を検討 評価・評定について研究

◇9月～10月

インフルエンザによる休校措置のため延期

◇11月

英語部会 夏季休業中の研修報告

◇12月

英語部会 研究のまとめ (1)

◇1月

英語部会 研究のまとめ (2)

◇2月

ペスタロッツ祭

(麹町中学校教諭 片岡美恵子 記)

中央区

I. 研究主題

「表現力を高めるための指導の工夫」

II. 活動の経過

◇4月15日

英語部組織作り、研究主題決定
年間活動計画作成

◇6月17日

区費講師の交流会

◇6月19日

3学年研究授業 (銀座中学校)

Lesson3 Kumi Visits China

授業者：鶴田峰子 主任教諭

中西美香 少人数指導講師

◇9月30日

スピーキングテスト内容検討

日程決め・役割分担

◇11月12日

1学年研究授業 (日本橋中学校)

Lesson6 Assistance Dogs

授業者：品川智佳子 教諭

山根木奈津子 教諭

堀越亜希 少人数指導講師

◇1月27日

教育会研究発表会

「新教育課程実施にあたって」

講師：東京都教職員研修センター

研修部長 宮川保之先生

◇2月9日

2学年研究授業 (佃中学校)

DO IT WRITE 1

授業者：西村知代子 主任教諭

宮川詠子 少人数指導講師

Philippa Keogh (ALT)

◇2月24日

今年度の反省

(佃中学校副校長 柳 敏子 記)

港

区

I. 研究主題

「小中の連携を進める授業の工夫」

II. 活動の経過

◇5月27日(水) 研究主題決め

◇5月28日(木) 研究授業

授業者：赤坂中学校 北原延晃 先生

◇9月9日(水) 研究授業

授業者：青山中学校 関谷知美子 先生

(講師：北区外国語教育アドバイザー

坂下孝憲氏)

◇11月4日(水) 英語発表会

(審査委員長：山本新治氏)

◇1月13日(水) 研修会

講師：赤坂中学校 北原延晃 先生

◇2月10日(水) 1年間のまとめ

III. 成果と課題

今年度は各学校での小中連携について情報を共有することができた。また、国際科検討委員会や国際科担当者会との連携も図り、小学校英語活動について理解が深まった。さらには、中学校入門期の英語力定着調査や小学校テキストの分析などを実施し、小・中の英語指導の連続性が図られるようになった。その成果として、英語検定合格者の増加や英語発表会における発表内容の向上があげられる。

今後は、来年から始まる小中一貫校での指導実践を受け、英語科として小学校英語活動への関わり方などについて研究していきたい。

(赤坂中学校長 牛島順子 記)

新

宿

区

I. 研究主題

「指導と評価の一体化」

①観点別学習状況の精度を高める指導と評価の在り方

②小中連携を踏まえた入門期指導

II. 活動の経過

◇5月13日 新中教研一斉部会

組織作り、研修テーマ・計画決定等

◇7月9日 授業研究(於：牛込三中)

授業者：進藤絢子 教諭

講師：竹田秋人 先生

(新宿区国際理解室室長)

◇7月28日 夏季英語部研修会(全日)

午前講師：山本展子 先生

(都研修センター、学習指導専門員)

テーマ：「コミュニカティブ・テスト

ング～定期考査作り～」

午後講師：山本新治 先生

(前練馬区立関中学校校長)

テーマ：「小中連携を踏まえた中学1年生の指導法改善」

◇8月20日 第25回英語学芸発表会

◇10月14日 新中教研一斉部会

研修テーマ：「小中連携～小学校英語活動の実際～」

授業者：大場明子 教諭(戸塚三小)

◇11月6日 授業研究(於：西新宿中)

授業者：森川紗希・松友聖子 教諭

講師：久保野雅史 先生

(神奈川大学外国語学部准教授)

◇2月19日 授業研究(於：新宿中)

授業者：壽原友理子 教諭

講師：岩崎浩示 先生

(八王子第六中学校、東京教師道場助言者)

(牛込第一中学校主幹 関 実 記)

文 京 区

I. 研究主題

「実践的コミュニケーション能力を育成
するための指導の工夫」

II. 研究の経過

◇4月24日

英語部組織作り、研究主題決め

◇11月13日

関東甲信越英語教育研究大会参加
岡部芳枝教諭（文京区立文林中学校）

◇11月27日

研究授業・研究協議会

授業者：岡部芳枝 教諭（文林中）

講 師：中村 馨 先生

（文京区教育センター）

内 容：ニュークラウン1年7課

◇1月14日

英語研究部会ワークショップ

講 師：サイモン・コペル氏

🍏インタラック

指導講評：中村 馨 先生

（文京区教育センター）

内 容：「教科書を用いた指導の工夫」

というテーマでALTとティーム
ティーチングを行うとしたら、
どのように工夫するかをALT
を交えたグループで話し合った。
その結果をマイクロ・ティーチ
ングという形で、各グループが
発表を行った。

（茗台中学校主幹 阿久津仁史 記）

台 東 区

I. 研究主題

「基礎・基本の定着を目指して」
—様々な授業形態における
指導と評価の工夫・改善—

II. 研究の経過

◇4月15日 第1回英語部会

①役員選出

②年間予定確認

③研究テーマについて

◇7月1日 授業研究

①各校の工夫

②補助教材について

◇10月7日 研究授業・協議会

・授業者：荒川高広（柏葉中）

・授業内容：New Crown 1 L.5

・講 師：言語教育文化研究所
理事 後関正明 氏

*当日は、東京都教師道場の授業研究と
タイアップして行った。

◇11月14日 連合英語学芸会

スピーチの部、劇の部の発表

（浅草中学校教諭 川中子登志雄 記）

墨 田 区

I. 研究主題

「移行措置における実践的指導のあり方と工夫」

II. 活動の経過

◇4月15日 墨田区研究総会・一斉部会

①本年度役員の確認

②研究主題・年間活動内容の検討

◇7月1日 区中研公開授業・研究協議会

①公開授業 立花中学校 1年生

飯塚貴子 教諭・小野弘子 教諭

ALTアンドリュウ・ウォン

②講演

「新しい時代における英語教育のあり方と指導方法の工夫」

講 師：後関正明 先生

(國學院大學講師・言語教育文化研究所)

◇8月25日

区中研英語部サマーワークショップ

①場 所：墨田中会議室

②内 容：「実践的な授業形態の構成と指導方法の研究・研修」

③講 師：井村哲也 先生

(都立小石川中等教育学校)

◇11月25日 区中研公開授業

①公開授業 吾嬭第一中学校2年生

鈴木 誠 教諭

②講 演

「企業における人材育成について」

③講 師：藤田 實 先生

(Oglbe and Mayzer Asia Pacific取締役)

◇2月17日 区中研英語部研究発表

(錦糸中学校副校長 石川賢司 記)

江 東 区

I. 研究主題

・「基礎学力の充実を目指した指導と評価の工夫」(小学校の英語活動と結びつけて)

・「コミュニケーション能力育成を目指した指導と評価の工夫」

II. 研究の経過

◇5月8日 区中研一斉部会

・会 場：第二砂町中学校

・内 容：活動計画、組織作り等

◇6月29日 区中研前期研究授業

・授業者：石川真知子 教諭(亀戸中)

・単 元：Columbus21 3学年Unit 3

◇7月28日～31日

外国人講師によるワークショップ

(夏季集中講座)

・場 所：British Council

◇10月21日 区中研後期研究授業

・授業者：深瀬智子 教諭(東陽中)

・単 元：Columbus21 2学年Unit 6

◇11月6日 江東区英語学芸会

・会 場：江東区亀戸カメラアホール

・内 容：Speech11名、Others 4校

Play 3校参加

・Play部門 “Pinocchio”

(深川三中) 都大会出場

◇11月16日 小学校英語研修会

◇2月10日 区中研一斉部会

(深川第二中学校教諭 上田広夏 記)

品川区

I. 研究主題

「小中一貫教育を踏まえた小中学校における指導法の在り方」

II. 活動の経過

- ◇4・5月 定例教育会にて組織計画
- ◇6月3日 授業研究 7年生部会
・授業者：若狭俊教教諭（日野学園）
- ◇7月1日 授業研究 5・6年生部会
・授業者：雪本明里 教諭（城南二小）
- ◇9月9日 授業研究 9年生部会
・授業者：有家香奈子 教諭（江原一中）
ワークショップ
・講師：長 勝彦 先生
（武蔵野大学客員教授）
- ◇11月7日 研究授業 1・2年生部会
・授業者：多湖麻衣子 教諭
（第三日野小）
- ◇11月10日 中学校英語発表会
・プレイ部門都大会出場：東海中
- ◇11月11日 授業研究 8年生部会
・授業者：山縣晶子 教諭（荏原五中）
- ◇11月19日 小学校英語発表会
- ◇12月2日 授業研究 3・4年生部会
・授業者：榎田佳江 教諭（戸越小）
- ◇1月13日 分科会
・次年度に向けての組織等意見交換
- ◇2月3日 研究発表会
（浜川中学校教諭 倉本昌子 記）

目黒区

I. 研究主題

「確かな学力を身に付けさせる指導の工夫」

II. 研究の経過

- ◇4月8日
英語部会組織作り、研究主題決め
年間活動計画作成（東山中）
- ◇7月8日
研究主題に関する研修、情報交換
（東山中）
- ◇9月16日
研究主題に関する研修、情報交換
英語学芸大会目黒区代表選考会打ち合わせ（東山中）
- ◇10月13日
英語学芸大会目黒区代表選考会
（目黒九中）
- ◇11月11日
（1）公開授業・研究協議会
・授業者：竹村美保子 教諭、
Mr. Tomas Majyor
（目黒十中）
・助言者：金久保 勝 教諭
（目黒七中副校長）
（2）情報交換、研究発表について
- ◇2月3日
研究発表分科会、情報交換（五本木小）
・講師：佐久間康之 先生
（福島大学教授）
・演 題：新学習指導要領で英語教育
がどう変わるか
（東山中学校教諭 山田郁子 記）

大 田 区

I. 研究主題

「コミュニケーションへの関心・意欲を高める導入の工夫」

II. 研究の経過

◇4月15日 区教研一斉部会

- ・組織作り、各部活動計画、情報交換
- ・授業改善に関わる協議

①中学校英語の授業改善のポイント

②少人数指導の推進

③評価の改善のポイント

◇10月7日 小中連携講演会

「小学校英語活動と中学校英語への連携」

講 師：駒沢女子大学

準教授 太田 洋 先生

◇11月13日 連合学芸会（英語の部）

場 所：大田区民センター

Speechの部24名、Playの部3校Song1校が発表、区代表は安方中学校 鈴木愛海さんが「Unforgettable Summer」で都英語学芸大会Speechの部に出場

◇1月28日 研究授業（田園調布中）

授業者：中島 梓 教諭

講 師：港区立港陽小学校

福井正仁 校長先生

◇12月～2月 研究紀要作成

◇2月10日 区教研一斉部会

一年間の活動のまとめ

講演会：「中学校の英語教育に期待するもの」

講 師：東京外国語大学言語文化部門言語研究系 準教授・言語学博士 投野由紀夫 先生

（馬込中学校副校長 内山哲夫 記）

世 田 谷 区

I. 研究主題

（1）実践的コミュニケーション能力を育む英語科指導と評価の工夫

（2）小学校外国語（英語）活動から中学校英語科指導への円滑な接続の工夫

II. 研究の経過

◇5月13日 世中研総会

組織・研究主題・活動計画の協議

◇6月3日 前期研究会

「スピーチコンテストの運営とスピーチの指導について（協議会）」

◇6月18日 授業研究会

授業者：橋浦光夫 教諭（駒留中）

◇7月31日 夏期研修会

「小・中連携の英語教育とALTの効果的活用」（講義とワークショップ）

講 師：Mr. Cottrell&中井恵子様
（株式会社インタラック）

中村貴美子 先生

（世田谷区立梅丘中学校長）

◇10月1日 第20回世田谷区中学生

英語スピーチコンテスト予選大会

（中町ふれあいホール）

◇11月4日 第20回世田谷区中学生

英語スピーチコンテスト

（烏山区民センター）

◇11月10日 授業研究会

授業者：村上明美 教諭（緑丘中）

◇1月26日 国・公・私立交流会

授業者：淡路佳昌 教諭

（東京学芸大学附属世田谷中学校）

（用賀中学校教諭 富永規巧 記）

澁谷区

I. 研究主題

「英語指導の小中の連携を図り、小中高の連続性を見据え、4技能のバランスを図った英語コミュニケーション能力の伸長」

II. 活動の経過

- ◇5月13日 一斉部会、組織作り
- ◇9月11日 授業研究会
 - ・授業者：坪田裕希（原宿外苑中）
 - 授業内容：「新出文構造を自己表現につなげる活動」
 - 講師：太田 洋 先生
(駒沢女子大学准教授)
- ◇10月3日
高円宮杯英語弁論大会東京都予選
(2校出場1校予選突破)
- ◇10月17日、18日
全英連東京大会（日大文理学部）
(手伝い2名、参加1名)
- ◇11月26日
高円宮杯英語弁論大会関東甲信越大会
(1校出場・突破)
- ◇11月28日
高円宮杯英語弁論大会全日本決勝大会
(1校出場・6位)
松涛中学校3年生徒・全国6位表彰
- ◇12月4日 都中英研英語学芸大会
(スピーキングの部参加・優勝)
松涛中学校3年生徒・都大会優勝
- ◇2月17日 澁中研研究発表会
各学校の実践・取り組み紹介、
「新学習指導要領を実施するに当たって」
「スピーチ指導について」
発表者：瀧口 均（本町中）
講師：竹田秋人 先生
(元牛込三中校長、現新宿区教育センター)
(本町中学校主任教諭 瀧口 均 記)

中野区

I. 研究主題

「すべての生徒が生き生き参加できる授業の工夫～少人数授業と評価をめぐって～」

II. 研究の経過

- ◇4月22日 中野区中教研 英語部会
組織作り
- ◇6月17日 中野区中教研 英語部会
 - ・内容：「テストと評価」
 - ・各校でテストを持ち寄り、出題のポイントや評価との関わりについて検討。
- ◇8月26日 中野区中教研 英語部会
夏季研修会
 - ・内容：「すべての生徒が生き生き参加できる授業の工夫～少人数授業と評価をめぐって～」
 - ・講師：本多敏幸 先生
(千代田区立九段中等教育学校)
- ◇10月21日 中教研研究日
研究授業と研究協議
 - ・授業者：梅田一行 先生
(中野区立北中野中学校)
「中学1年生の授業 Lesson5 代名詞の学習」
 - ・講師：吉岡潤子 先生
(江東区立大島中学校)
「すべての生徒が生き生き参加できる授業の工夫～学習集団づくりと教材づくりの視点から～」
- ◇11月14日 中野区英語学芸会
 - ・野方W I Zホールにて、5校が参加、実施。中野区立第九中学校が中野区代表として東京都大会に出場した。
- ◇2月17日 中教研 研究発表会
 - ・内容：「国際理解教育のテーマ学習を基にした英語活動」
 - ・講師：町田淳子 先生
(小学校テーマ別英語教育研究会)
(第三中学校教諭 柏村みね子 記)

杉 並 区

I. 研究主題

「4技能を総合的にはぐくむ指導の工夫」

II. 研究の経過

- ◇4月15日 杉並教育研究会一斉部会
・研究主題・組織・年間計画
- ◇6月10日杉教研一斉部会
・電子メールによる国際交流
・情報機器を活用した授業
・新学習指導要領学習会
- ◇7月29・30・31日
夏季ワークショップ
・「授業の展開の仕方」Mr. Dean Charles
(British Council) ・「GDMを取り入れた授業」小柳守生 教諭(文京区立第十中学校)
・「小学校英語活動と中学校英語の連携」小林泰義 教諭(所沢市立狭山ヶ丘中学校)
・「アガサ・クリスティの華麗な世界」平井杏子 教授(昭和女子大学)
- ◇10月7日
幼小中合同研究会研究授業
平井千夏 教諭(杉森中学校)
- ◇11月6日 英語学芸発表会
スピーチ、プレイなど11校117名参加
優勝Romeo and Juliet(松ノ木中学校)
- ◇公開授業
・10月26日 泉 敬子 教諭
(中瀬中学校)
・11月26日 宮口真太郎 教諭
(井草中学校)
・1月25日 春日陽子 主任教諭
(向陽中学校)
- ◇1月21日
冬季ワークショップ
研究授業石川直美 教諭(東田中学校)
講 師: 中村 馨 先生
- ◇2月17日 杉教研発表会
- ◇杉並区リスニングコンテスト
(松溪中学校教諭 平出 敏 記)

豊 島 区

I. 研究主題

「国際教育の推進に果たす英語科の役割」

—コミュニケーション能力を

育成する指導法の工夫—

- ◇4月15日 区中研一斉部会(西池袋中)
組織作り、研究主題、年間活動計画、
ALTの活用について、少人数制指導に
ついて、小学校英語活動についての確認
- ◇11月11日 区中研一斉部会(池袋中)
研究授業と研究協議
授業者: 會川こころ
(池袋中学校主任教諭)
内 容: ゲーム活動におけるコミュニケ
ーション指導
講 師: 清野 正
(豊島区教育委員会統括指導主事)
「新学習指導要領の全面実施に向けて」
- ◇1月13日 区中研教科発表会(西池袋中)
研究授業と研究協議
授業者: 矢部康子
(西池袋中学校教諭)
内 容: 第1学年Lesson8
canの否定文
講 師: 清野 正
(豊島区教育委員会統括指導主事)
「豊島教育ビジョン英語教育に関する部
分の説明」
(西池袋中学校長 飯島光正 記)

北

区

I. 研究主題

「実践的コミュニケーション能力の向上
をめざした授業の工夫」

II. 活動の経過

- ◇5月8日 北区教育会一斉部会
組織作り、研究目標、活動計画、
情報交換
- ◇10月15日 研究授業、協議会、部会
授業者：中村素子 教諭（堀船中）
対 象：2年
内 容：Sunshine English Course 2
Program 6
授業形態：ティームティーチング
- ◇11月13日
連合学芸会英語スピーチコンテスト
場 所：北区立滝野川会館
参加者：4校5名
最優秀生徒は、東京都英語学芸大会に参
加できる。
- ◇12月6日 東京都英語学芸大会
英語スピーチ参加
神谷中3年生
- ◇2月18日 教育研究発表会
研究授業、協議会
授業者：土井宏之 教諭（稲付中）
対 象：1年
内 容：Sunshine English Course 1
Program 8
講 師：坂下孝憲
（北区外国語教育アドバイザー）
（神谷中学校副校長 石川慎一郎 記）

荒

川

区

I. 研究主題

「積極的にコミュニケーションを図ろう
とする態度の育成～新指導要領に向け
て～」

II. 活動の経過

- ◇4月16日(水)
組織作り、研究主題設定
- ◇7月8日(水) 研究授業2学年
「ペアワーク・グループワークによるコ
ミュニケーション活動」
授業者：第四中学校 池田 豊 教諭
塩畑英朋教諭 カレン加藤 教諭
- ◇9月16日(水) 講演会
講 師：玉川大学教授 高橋貞雄氏
テーマ：「新学習指導要領が求め『言語
活動』」
会 場：諏訪台中学校
- ◇11月4日(水)
第29回スピーチコンテスト
会 場：サンパール荒川会議室
- ◇11月18日(水) 研究授業1学年
「習熟度別クラスの様々な活動」
授業者：第五中学校 富岡徹志 教諭
松本富恵 講師 柳川完資 教諭
本会は小学校部会との合同開催
- ◇1月21日(水) 小中合同部会
瑞光小学校4年生英語の授業見学と研究
協議会（英語特区）
- ◇2月17日(水) 研究発表大会
誌上発表報告会
（諏訪台中学校主任教諭 山崎 聡 記）

板 橋 区

I. 研究主題

「言語活動のあり方（改善・充実）
－小学校との連携－」

II. 活動の経過

◇4月22日

役員選出、研究主題及び年間研究活動計画等の策定

◇6月18日 研究授業・研究協議会

授業者：服部智恵 教諭（志村二中）
単 元：New Crown 3 Lesson 3

◇8月4日 夏季ワークショップ

主 題：教材・言語活動の工夫、team-teachingの工夫（西台中会場）

講 師：Mr. Natsumi Valerga

授業者が具体的にどのように授業を組み立てるかを中心に講義だけでなく、具体的な演習を取り入れた。

◇11月10日 英語の集い

成増アクトホールにて実施。13組の参加。高一中がplay部門で都の英語学芸会にて発表。

◇11月11日 研究授業・研究協議会

授業者：勢子真理子 教諭（板橋二中）
Mr. John Presley (ALT)

単 元：New Crown 1 Talk 4

◇1月28日 研究授業・研究協議会

授業者：原田公美 教諭（赤塚三中）

単 元：New Crown 1 Lesson 7

註1：全ての研究授業では、板橋三中、竹下賢校長と赤塚二中、稲葉秀哉校長及び担当部長が、講師を務めた。

註2：小学校との連携について、情報提供を含め、さらに検討を進める。

（西台中学校教諭 西間木慶子 記）

練 馬 区

I. 研究主題

「基礎・基本の定着を図り、実践的コミュニケーション能力の基礎を培う。また新学習指導要領に向けて基礎研究を行う。」

II. 活動の経過

◇5月20日 区中研一斉部会

◇6月24日 授業研究会（開進一中）

授業者：小林博子 主任教諭
Mr. Robert Haze

◇7月30日・31日 夏期研修会

* 「これからの英語教育－小中の連携を考える」

講 師：長沼君主 先生

（東京外語大外国語学部学習支援センター）

* 「マイクロティーチングで授業研究を」

発 表：稲葉やす子 教諭（小平一中）

伊地知可奈 主任教諭（八坂中）

講 師：五十嵐浩子先生

（練馬区教育委員会統括指導主事）

* 「英語力を伸ばす指導－単語力をどうつけるか」

講 師：日臺滋之 先生（玉川大学）

* 「ICTを活用した授業」

講 師：山本崇雄 先生

（都立両国高等学校附属中学校）

◇10月31日 英語学芸会

“The Cat Who Wished to Be a Man”

（田柄中）都大会に出場 特別賞受賞

◇11月11日 授業研究（貫井中）

授業者：伊藤智子 教諭

◇2月9日 授業研究（大泉北中）

授業者：白川智恵子 主任教諭

（八坂中学校主任教諭 伊地知可奈 記）

足 立 区

- I. 研究主題
「基礎・基本の定着とコミュニケーション能力の育成を図る指導の工夫」
- II. 活動の経過
- ◇4月22日
区中研一斉教科部会（第十四中）
・組織作り、研究主題、活動計画
・新学習指導要領について
- ◇6月15日（第十中）
区中研第1回研究授業
授業者：溪内 明 教諭
- ◇8月6日 夏季研修会（第十四中）
内 容：「簡単なテスト理論と
classroom English」
研修部主催
- ◇10月21日（江南中）
区中研第2回研究授業
授業者：平澤 圭 教諭
- ◇10月23日（西新井文化センター）
足立区連合英語学芸会
区連合英語学芸会（15校参加）
スピーチ部門（10校参加）
演劇部門（4校参加）
ビデオ発表部門（1校参加）
- ◇12月2日（花畑中）
区中研第3回研究授業
授業者：秋本真澄 教諭
- ◇1月20日（第十四中）
区中研第4回研究授業
授業者：三輪政継教諭
- ◇2月3日一斉教科部会(第十四中)
講 演：「言語活動と結びつける文法指
導のあり方」
講 師：明海大学名誉教授
和田 稔先生
(第六中学校教諭 紺野正典 記)

葛 飾 区

- I. 研究主題
「基礎学力を定着させ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する指導の在り方」
- II. 活動の経過
- ◇4月21日
ALT導入全校説明会、割当調整会議
- ◇5月13日 葛中研全員部会
事業報告、会計報告、役員選出、
事業計画、予算案、情報交換
- ◇6月26日 ALTワークショップ
・指導における課題と効果的な指導法の
研究
・ALT活用事例研究
- ◇9月10日 研究授業・研究協議会
授業者：渡邊映二 教諭（高砂中）
講 師：長 勝彦先生
(武蔵野大学客員教授)
- ◇10月7日 研究授業・研究協議会
授業者：鳥谷 亮 教諭（双葉中）
講 師：及川 賢 先生
(埼玉大学准教授)
- ◇10月16日 第24回葛飾区立中学校英語
スピーチ&プレイコンテスト
(かめありリリオホール)
レシテーション：10名、プレイ1校、ス
ピーチ20名参加
インフルエンザ感染により2名
(レ)、プレイ1校、2名(ス)の欠場
が出た。
- ◇2月18日 研究授業・研究協議会
授業者：小川 登子 教諭（葛美中）
講 師：下村 勇三郎 先生
(元日本橋学館大学教授)
(高砂中学校長 余野直紀 記)

江戸川区

I. 研究主題

「新学習指導要領への移行を踏まえた指導計画の工夫」

II. 活動の経過

◇5月13日 「区中研総会」 「役員会」

・組織及び年間活動計画確認

◇6月10日 研修会

・内容：「これからの英語教育の推進について」

・講師：余野直紀 先生
(葛飾区立高砂中学校 校長)

◇8月21日 夏季研修会

・「新しい視点に立った試験範囲の作成」

◇11月16日 研修会 (一部の地域)

・小学校との連携について
・情報交換

◇11月～12月 (全中学校)

・スプリングコンテスト

◇2月12日 研究授業・協議会

・授業者：料所奈緒子 教諭
(松江第五中学校)

・講師：本多敏幸 先生
(千代田区立九段中等教育学校)

◇3月 役員会

・反省と次年度計画
(小岩第三中学校長 蓮沼千秋 記)

八王子市

I. 研究主題

「小中一貫の英語教育に対応できる英語力と授業力向上を目指して」

II. 活動の経過

◇4月14日 部会

①本年度の役員の確認

②本年度の研究内容の検討
研修会の具体的な内容の検討

◇7月29日 パワーアップ研修会
(八王子市立鏈水中学校にて)

①ワークショップ

・講師：Leslie Sagara-Yoshimura 先生
(財)英語教育協議会 (ELEC)

・演習テーマ
「英語運用能力向上を目的とした実用的な言語活動」

②講演

・講師：吉田研作 先生
(上智大学外国語学部 教授)

・演題
「英語教育における小中一貫教育の具体的な方向性と様々な手法等」

○市内47名の先生が参加。
(城山中学校教諭 関口 健 記)

立 川 市

I. 研究主題

「自ら学ぶ力を育て、確かな学力の定着を図る～言語活動を重視した学習・生活指導の充実～」

II. 研究の経過

◇ 5月13日 一斉教科研究部会

①組織作り

②研究主題と活動計画の作成

◇ 7月29日 研修会①

テーマ：ALTとの授業の進め方

講 師：Kiren 矢野先生

(CEC外語センター)

内 容：英語の歌の指導やゲームの導入方法について有意義なアイデアを教えていただいた。

◇ 8月24日 研修会②

テーマ：模擬授業による研究授業

授業者：大久保圭二郎 教諭 (四中)

齋藤佑次 教諭 (六中)

塩原真一 教諭 (八中)

◇ 9月15日 研究授業

テーマ：模擬授業による研究授業

授業者：山田しのぶ 主任教諭 (二中)

◇ 2月17日 研究発表会

テーマ：『基礎学力定着に向けたカリキュラム編成の工夫～移行期を通して「魅力ある授業」の創造～』

発表者：齋藤佑次 教諭

(第六中学校教諭 齋藤佑次 記)

武 蔵 野 市

I. 研究主題

「発信力を高める指導の工夫」

II. 活動の経過

◇ 4月22日 市教育会一斉部会

組織作り、研究主題決定、情報交換

◇ 5月13日 定例会

ALT派遣について

今年度の予算 研究の進め方

◇ 9月16日 市教育会講演会

◇ 10月14日 定例会 (研修会)

内 容：「教科書のInputからOutputへ」
Reproductionへの段階的指導と
その後の活動

講 師：東村山市立東村山第二中学校

谷口弘美 先生

◇ 11月11日 定例会

研究授業に向けての指導案検討及び情報交換

◇ 1月20日 研究授業・協議会

授業者：伊藤義則 教諭 (六中)

飯塚 剛 教諭 (六中)

前田義徳 教諭 (六中)

1年生少人数授業

講 師：東京都教職員研修センター授業

力向上課教授

山本展子 先生

◇ 2月12日 研究発表会 (紙上)

(第五中学校主幹 長田茂男 記)

三 鷹 市

I. 研究主題

「小学校英語活動と連携した指導の工夫」

II. 研究の経過

- ◇ 4月22日 鷹教研総会・一斉部会
○中学校部会 ○小・中合同部会
- ◇ 5月13日 中学校部会・合同部会
○年間活動計画案検討
○合同研修会研究授業計画案検討
- ◇ 6月10日 小・中合同研究会
○研究授業
授業者：下津由子 教諭
(三鷹の森学園五小)
講 師：松永 透 統括指導主事
(三鷹市教育委員会)
- ◇ 8月28日 中学校部会
○英語部会研究発表計画立案
- ◇ 9月9日 小・中合同研究会
○研究授業
授業者：小中原 愛 教諭
岸本 聡 教諭
(東三鷹学園六中)
講 師：松永 透 統括指導主事
(三鷹市教育委員会)
- ◇ 11月11日 小・中合同研究会
○研究授業
授業者：池田和麿 教諭
(三鷹の森学園三中)
講 師：山本新治 先生
(三菱商事海外子女教育相談室長)
- ◇ 2月17日 三鷹市教育研究発表会
発表者：小中原 愛 教諭
(第六中学校教諭 小中原 愛 記)

青 梅 市

I. 研究主題

「より良い授業の工夫と創造」

II. 研究の経過

- ◇ 5月13日 中教研総会・部会
- ◇ 7月13日 研修会
・内 容：新教育課程について学習
- ◇ 9月11日 授業研究
・授業者：佐々木 勝 (第七中)
・授業内容：Total English 1-4-A
- ◇ 10月29日 授業研究・研修会
・授業者：出口由香里 (第三中)
・授業内容：Total English 1-5-C
・研修会：「生徒の学習活動と内容をどう充実させていくか」
・提案者：鳥居智子 (第三中)
- ◇ 11月6日 授業研究
・授業者：軍司克子 (西中)
・授業内容：1年「私の一日」
- ◇ 11月24日 授業研究
・授業者：大城雄樹 (新町中)
・授業内容：Total English 1-6-C
- ◇ 1月13日 授業研究
・授業者：佐伯昌子 (霞台中)
・授業内容：1年「どっち？」
- ◇ 1月20日 小・中合同授業研究
・授業者：細江剛史 (第四小)
・授業内容：5年生の外国語活動
- ◇ 1月28日 授業研究
・授業者：百合野麻莉 (第六中)
(東京教師道場2年次部員)
・授業内容：Total English 1-8-B
・講 師：都教職員研修センター
教授 山本展子 先生
(第六中学校副校長 田中 眞 記)

府 中 市

I. 研究主題

「新学習指導要領実施に向けての指導方法の工夫・改善－語彙指導強化の視点から－」

II. 研究の経過

◇4月15日 部員総会

◇5月13日 府教研総会

◇6月10日 講演会

講 師：太田洋准 教授（駒澤女子大学）

内 容：語彙指導強化をテーマとして、現場の教員がどういった指導を行っているか、どういった悩みを抱えているかなどを引き出し、それらについてアドバイスをいただくと同時に、意見交換を行い様々なアイデアをシェアできた。

◇8月19日 サマーワークショップ

講 師：本多敏幸 教諭

（千代田区立九段中等教育学校）

内 容：新学習指導要領が何を求めているかというポイントを踏まえた上で、語彙指導について具体的なテクニックやアイデア、実践事例などを学ぶことができた。

◇10月7日 研究授業

授業者：松永高志 教諭

（府中市立府中第十中学校）

講 師：津田雅子 教諭

（練馬区立豊玉中学校）

内 容：語彙指導を意識した授業を展開。津田雅子教諭による助言をいただき、活発な意見交換をすることができた。

◇1月13日 研究授業

授業者：市川拓治 教諭

（府中市立府中第九中学校）

講 師：岩崎浩示 教諭

（八王子第六中学校）

内 容：教師道場公開授業との連携。語彙指導について、岩崎教諭の講評・助言をもとに活発な意見交換を行うことができた。（予定）

◇3月3日 府教研総会

（府中第二中学校教諭 前川卓哉 記）

昭 島 市

I. 研究主題

「自己表現力を高める授業 その3」

II. 研究の経過

◇4月15日 一斉部会

・研究主題、年間計画、組織作り

◇5月27日 部会

・ワークショップ

・昭和中学校、福島中学校、瑞雲中学校の先生による指導案紹介

◇10月7日 部会

・ワークショップ

・清泉中学校、拝島中学校、多摩辺中学校の先生による指導案紹介

◇1月13日 部会

・東小学校の英語授業ビデオ鑑賞と協議

・ALTを交え、小学校での英語指導と中学校での英語指導について協議

（昭和中学校教諭 山本紀子 記）

調 布 市

I. 研究主題

「生き生きと学び、教えるために
－魅力ある授業法を実践例から学ぶ－」

II. 活動の経過

◇ 5月13日 調中研総会、一斉部会

- ・本年度役員の確認
- ・研究主題、活動計画の検討

◇ 6月17日 研修会

「ALTを活用したTT授業の工夫」
・各学校の取り組みについて発表

◇ 8月7日 研修会

「教材研究 『DVDわくわく授業』を
見て授業法を学ぶ」

- ・DVD鑑賞、意見交換

◇ 10月14日 研修会

「教材研究『教科書本文を取り扱うとき
の授業、勧めたい授業』」

- ・各学校の取り組みについて発表

◇ 11月12日 授業研究

- ・授業者：松村敏以 先生

(調布市第六中学校)

- ・授業内容：New Crown1 Lesson6

◇ 1月19日 授業研究

- ・授業者：古川 悟 (調布市第七中学校)

- ・授業内容：New Crown1 DO IT TALK5

- ・講師：調布市教育委員会

指導主事 小坂 力 先生

◇ 2月3日 研究発表会

(第七中学校教諭 古川 悟 記)

町 田 市

I. 研究主題

「小学校英語活動を生かした指導法の工夫」

II. 研究の経過

◇ 4月15日 「市中教研一斉部会」

- ・組織作り
- ・研究主題と年間計画決定

◇ 5月13日 「市中研定期総会」

◇ 11月11日 研究授業

- ・授業者：青木 清 先生
武田美恵子 先生
(小山田中学校)

- ・授業内容：Lesson 7 現在進行形

◇ 2月9日 研究協議会

講師：渡邊寛治 先生

(文京学院大学教授)

演 題：小学校英語活動がめざすもの

－中学校英語教育とのかかわり－

会 場：町田市教育センター

(成瀬台中学校教諭 野村恵子 記)

小 金 井 市

I. 研究主題

「生き生きとした言語活動をめざして」

II. 研究の経過

- ◇4月 市教研総会・一斉部会
 - ・組織作り
 - ・研究課題の内容の検討
- ◇6月 運動会延期のため部会が延期
- ◇10月 研修会
各校で使用しているワークシートを持ち寄り、指導法などの情報交換。
- ◇11月 講演会
テーマ：「生き生きとした言語活動をめざして」
講 師：長 勝彦 先生
- ◇1月 授業研究
小学校で英語の授業を参観、研究協議。
- ◇2月 研究発表会
紙上発表
(小金井第一中学校教諭 葛岡明子 記)

小 平 市

I. 研究主題

「4技能育成のための指導法の工夫」

II. 活動の経過

- ◇4月22日
 - ・小平市中学校教科等研究会
組織作り 年間計画
- ◇7月27日
 - ・英語科研修会
各校・各教員のショートアクティビティの紹介 (第1回)
- ◇7月28日
 - ・英語科研修会
各校・各教員のショートアクティビティの紹介 (第2回)
- ◇9月16日
 - ・研究授業・協議会
授業者：松島美沙教諭
(小平第三中学校)
授業内容：文法指導「不定詞名詞的用法」
・講 師：日臺滋之先生
(玉川大学文学部比較文化学科
准教授)
- ◇10月26日
 - ・研修まとめ

(花小金井南中学校教諭 栢山真由美 記)

日 野 市

I. 研究主題

「基礎学力の定着を目指す授業～学習指導要領の改訂を踏まえて～」

II. 研究の経過

◇6月3日 第1回部会（日野四中にて）

- ・今年度の研究課題の設定
- ・活動計画作成
- ・意見交換（授業計画の立て方）

◇7月1日 第2回部会（日野四中にて）

- ・授業研究①
授業者日野4中 岩間康行 教諭

◇10月7日 第3回部会

（都立立川国際中等教育学校にて）

- ・授業研究② 中1クラス（少人数）
- ・施設見学および英語科の体制などの説明

◇10月26日 第4回部会（大坂上中にて）

- ・授業研究③
授業者大坂上中 森田 剛 教諭
*東京教師道場との合同開催

◇11月5日 第5回部会

（千代田区立九段中等教育学校にて）

- ・授業研究④
- ・授業者九段中 田口 徹 主任教諭

◇2月17日

一斉部会 中教研研究発表会
（日野第四中学校教諭 幡野洋子 記）

東 村 山 市

I. 研究主題

「実践的授業力の向上」

II. 研究の経過

◇4月 組織作り

研究主題年間計画検討

◇5月 定期総会

◇6月 学校選択に関する情報交換

◇9月 研究授業

授業者：奥野大輔 先生

（東村山第三中学校）

対 象：1年生

講 師：練馬区立豊溪中学校

校長 西 正弘 先生

◇10月 ALTとの授業に関する情報交換

◇11月 研究授業

授業者：崔 純代 先生

（東村山第四中学校）

対 象：1年生

講 師：東京都立武蔵丘高等学校

堂山 勇 先生

◇1月 研究授業

授業者：横井智洋 先生

（東村山第二中学校）

対 象：1年生

講 師：東村山市立第二中学校

校長 川端啓三 先生

◇2月 研究発表会

◇3月 今年度のまとめ

英語ノートに関する情報交換

（東村山第一中学校教諭 向後ともみ 記）

国 分 寺 市

- I. 研究主題
「豊かな表現力を育成するための指導と工夫 ～How to encourage students to use English～」
- II. 研究の経過
- ◇4月15日 「市教研一斉部会」
 - ・組織作り
 - ・研究主題と年間計画決定
 - ◇6月3日 「市教研一斉部会」
 - ・各校における実践報告
 - ◇8月28日 「授業改善研修会」
 - ・研究授業指導案検討及び研修会
内 容：「使える英語力」を育てる
講 師：相沢秀和 教諭
(昭島市立瑞雲中学校)
 - ◇10月15日 「授業改善研修会」
 - 授業者：桑野哲治 教諭
(国分寺二中)
 - 講 師：指導主事 林 宣之 先生
(東京都教職員研修センター)
 - ◇11月11日 「ワークショップ」
 - 内 容：「How to let students use English and lead them to production level?」
 - 講 師：安原美代 先生
 - ◇1月13日 「市教研一斉部会」
 - ・ビデオによる授業研究
 - ・研修のまとめ
(第一中学校教諭 寺井玲子 記)

国 立 市

- I. 研究主題
「小中学校の英語授業の交流
～英語ノート活用の仕方～」
- II. 活動の経過
- ◇4月22日
講演、組織作り、研修計画作成
 - ◇5月20日
研究主題の決定
 - ◇6月10日
小学校教諭による模擬授業、情報交換
 - ◇7月22日
研究授業指導案の検討
講 師：立川市適応指導教室
指導委員：宇津木悦子 先生
 - ◇9月16日
研究授業指導案の完成に向けた協議
 - ◇10月21日 第7回研修会
公開授業研究（他教科）
 - ◇11月4日 第8回研修会
公開授業研究
授業者：第二中学校
主任教諭 植木 淳
第五小学校
教 諭 重政 敏幸
対 象：小学5年生
講 師：立川市適応指導教室
指導委員：宇津木悦子 先生
 - ◇1月27日
研修のまとめ
(第一中学校教諭 小林秀子 記)

福 生 市

I. 研究主題

「学習習慣の確立」

II. 活動の経過

◇4月15日 部会

自己紹介、役員選出、研究主題の決定、年間活動計画の確認

◇7月1日 研究授業

授業者：川島暁美 教諭（福生二中）

講 師：清野 正（豊島区教育委員会）

内 容：予習・宿題の指示を与え、授業の中でそれらを個別に指導することにより、学習習慣の確立を図る。

◇9月9日 研究授業

授業者：門間隆弘 教諭・桑田真帆 教諭（福生一中）

少人数学習集団の指導

講 師：田吉國子（元立川二中校長）

内 容：発音やドリルの反復練習によって学習習慣の確立を図る。

◇10月13日 研究授業

授業者：星 雄介 教諭・岡部麻衣子 教諭（福生三中）

少人数学習集団の指導

講 師：田吉國子（元立川二中校長）

内 容：授業ノートの他に家庭学習ノートを用意させて英文を書かせる作業を通して、学習習慣の確立を図る。

◇1月20日 小学校の外国語活動授業参観

授業者：福生六小 教諭

内 容：中学校英語科教員が小学校の外国語活動の授業を参観し、小中連携を図る。

◇2月17日 研究報告会

場 所：福生市民会館

（福生第二中学校主任教諭 高岡雅人 記）

狛 江 市

I. 研究主題

「小学校との連携について」

II. 研究の経過

◇4月15日

英語部組織作り、研究主題決め

◇5月8日

「市内教研総会」

◇5月11日

小学校教員向けの「英語の授業研修会」に参加

◇7月3日

部長会

◇10月19日

（1）授業研究

授業者：北条仁信(四中)

授業内容：New Crown 3 Lesson 6

（インフルエンザのため中止）

◇2月24日

「市中教研発表会」

（狛江第四中学校教諭 北条仁信 記）

東 大 和 市

- I. 研究主題：基礎・基本を目指した授業のあり方
ー書くこと、話すことの授業を通してー
- II. 研究の経過
- ◇5月13日(水) 一斉部会
会 場：東大和市立第五中学校
内 容：会場部長、会計選出
活動方針、活動計画の作成
研究主題の検討
- ◇8月26日(水) 研究部会
会 場：東大和市立第二中学校
講 師：田邊祐司先生（専修大学教授）
内 容：①各校より、授業で使用している、プリント等を持ちより、日頃の授業の様子等を話してもらった。
②講師講話：実際にアクティビティをしながら、コミュニケーション能力を高める授業の方法のアドバイスをいただいた。
- ◇11月11日(水) 研究部会Ⅱ
会 場：東大和市立第五中学校
授業者：阿部公一 教諭（東大和五中）
講 師：見上 晃 先生（拓殖大学教授）
内 容：24年度からの学習指導要領の改訂を前に、今後の中学校における英語の授業についてのアドバイスをいただいた。
(第三中学校教諭 阿部則子 記)

清 瀬 市

- I. 研究主題
「考える力を育てる指導の工夫」
～小中連携を通して～
- II. 活動の経過
- ◇5月13日
市内中学校教科・領域春季総会研究内容の決定
・小中の連携を通じた英語指導の工夫、改善について
・清瀬市立中学校における英語学習ミニマムスタンダードについて
- ◇9～12月
・各中学校区域の小学校の英語活動の参観
- ◇10月21日
場 所：清瀬小学校
授業者：大屋由紀 教諭
A L T Keith Kitano
授業内容：「小学校英語活動」
講 師：横浜国立大学付属鎌倉小学校
市川容子 先生
- ◇10月30日 公開授業
場 所：清瀬中学校
授業者：増田美奈子 教諭
A L T Anusa Shrestha
単 元：Unit 5, 6
講 師：東京都教育アドバイザー
北原俊幸 先生
- ◇11月4日
・市内中学校教科・領域秋季総会清瀬市立中学校における英語学習ミニマムスタンダードの検討・作成
- ◇12月19日
・市内学力向上委員会にてミニマムスタンダードの検討・作成
(清瀬中学校教諭 遊佐和正 記)

東久留米市

I. 研究主題

「生徒が意欲的に取り組む授業の工夫」
「小学校外国語活動と中学校英語の指導
について」

II. 活動の経過

◇5月27日

市授業改善研究会一斉 部会
組織作り、研究主題、年間計画の決定、
市内情報交換

◇6月17日

研究授業・研究協議会
授業者：近藤正浩 教諭（南中学校）
授業内容：3年New Crown Lesson5-1
講 師：荒木秀二 先生（東洋学園大学）
演 題：「小学校外国語活動と中学校英
語の指導について」

◇9月9日

市一斉小中合同授業改善 研究会
小学校研究授業及び研究協議会
各自が小学校の外国語活動等の研究授業
参観及び研究協議会参加

◇2月24日

市授業改善研究会一斉 部会
21年度反省と22年度計画
（中央中学校副校長 宮寺 清 記）

武蔵村山市

I. 研究主題

「英語の指導法の工夫・改善～ALTとの
チームティーチングを通して～」

II. 活動の経過

◇4月22日

市中教研一斉部会
・組織編成
・年間事業計画
・研究テーマ設定

◇6月25日

小中一貫授業研究会(小中交流授業)
授業内容：What animal do you like?

◇10月6日

小中一貫授業研究会(小中交流授業)
授業内容 What's this ?

◇10月21日

授業研究・研究協議会
授業内容：One World 1・2
Lesson5 (1・2学年)
講 演：和田文宏 先生
（狛江市立狛江第三中学校副校長）

◇11月18日

市中教研一斉部会
・各校よりALTとの授業内容報告
・ワークシートの意見交換

◇2月17日

授業研究・研究協議会・一斉部会
・ALTとのチームティーチング
・本年度の活動のまとめ
・次年度の活動計画
（第三中学校教諭 爪 理香 記）

多 摩 市

I. 研究主題

「生徒の意欲を引き出す授業の工夫」

II. 研究の経過

- ◇ 5月13日(水) 市中教研一斉部会
内 容：(1) 英語部組織作り
(2) 研究主題と年間計画決定
- ◇ 7月6日(月)
内 容：ALTとの研究授業・研究協議
・授業者：Edward Weinzierl 先生
伴野敦子教諭(青陵中)
- ◇ 11月24日(火)
内 容：小学校における英語授業の取り
組み参観・合同研究協議
・授業者：小林郷恵 教諭
(多摩第三小学校)
・講 師：大谷由布子 先生
(恵泉女学園大学助教授)
- ◇ 2月1日(月)
内 容：ALTとの研究授業・研究協議
・授業者：Robert Paquet 先生
安藤俊子 教諭(諏訪中)
(青陵中学校教諭 伴野敦子 記)

稲 城 市

I. 研究主題

「英語ノート・教科書の効果的な活用」

II. 研究の経過

- ◇ 4月15日
組織編成、研究主題・年間活動計画
- ◇ 5月13日 講義
岩崎紀美子 指導主事(教育庁指導部)
- ◇ 6月17日
(小) 英語ノートを使った授業プランの検討
(中) 講義「教科書の効果的な活用」
肥沼則明 先生(国立筑波大付属中)
- ◇ 8月26日
研究授業指導案検討
ワークショップ
太田洋准教授(駒沢女子大学)
- ◇ 9月9日
小学校研究授業
授業者：萩原 稔 教諭(第二小学校)
講 師：浅田田鶴子 先生
(港区立筈小学校)
- ◇ 10月14日
中学校研究授業
授業者：岡村泰佑 教諭(第二中学校)
講 師：磯部修一 校長
(横浜市立小田中学校)
- ◇ 11月11日
ワークショップ
講 師：太田 洋 准教授(駒沢女子大学)
(第三中学校教諭 高橋彩子 記)

あきる野市

I. 研究主題

「表現力を定着させる教科書の活用法の工夫」

II. 研究の経過

◇6月10日 市中教研研究授業

・授業者：三浦利男（御堂中）
東井靖展（御堂中）

・授業内容：NEW CROWN 2 DO IT
TALK1

・講師：拓殖大学名誉教授
名和雄次郎 先生

◇8月24日 市教研授業力向上研修

・内容：小・中の連携について新学習指導要領の移行措置について表現力を定着させる教科書の活用について

◇10月21日市中教研研究授業

・授業者：寺山育男（五日市中）
・授業内容：NEW CROWN 3 Lesson 5
・講師：西池袋中学校
伊地知義信 先生

◇1月13日 市中教研研究授業

・授業者：長谷川 明（西中）
・授業内容：NEW CROWN 1 Lesson 7
・講師：深川区立第八中学校
石井 亨 先生
（五日市中学校教諭 上水謙治 記）

西 東 京 市

I. 研究主題

「新学習指導要領の研修」

II. 研究の経過

◇5月13日 西東京市中学校教育研究会総会、一斉部会

①本年度役員の確認
②昨年度活動報告・今年度活動計画

◇7月24日 夏期研修会

・テーマ：「中学校英語を再考する－小学校外国語活動の本格実施を見据えて－」

・講師：三菱商事株式会社
海外子女教育相談室長
（元練馬区関中学校長）山本新治 先生

・内容：新学習指導要領の導入を前に講議を聞き活発な意見交換ができ、有意義であった。

◇11月4日 研究授業及び協議会

・授業者：阿戸雅恵 教諭
（保谷中）
・授業内容：New Crown 1 Lesson 6
・授業参観後、各学校の実態などの意見交換ができ、有意義であった。

◇1月15日 研究授業及び協議会

・授業者：鈴木佐智子 教諭
（ひばりが丘中）
・授業内容：New Crown 3 Let's Read 1
・長文を自らの力で読み進めるにはどうしたらよいかについて意見交換ができた。

（明保中学校教諭 松下里美 記）

羽村・西多摩

I. 研究主題

「生徒が意欲的に参加することのできる授業の工夫」

II. 研究の経過

◇5月20日

西多摩中学校教育研究会及び一斉部会

①役員選出及び承認

②部長校及び研究授業の順番についての検討

③研究主題及び年間予定の確認

◇6月29日 研究授業

・授業者：山中洋介 主幹教諭

(羽村二中)

・授業内容：Total English 2

Lesson 3 “Fight to the U.K.”

・講師：羽村市教職員研修センター
教育相談員 森田一彦 先生

◇8月21日 研究会

・「教科指導法及び電子黒板を中心にした教育機器に関する研修」

(羽村二中)

◇2月3日

西多摩中学校教育研究会全体研修会

(羽村第二中学校主任教諭 原島明彦 記)

大 島

I. 研究主題

『「読む力」「書く力」を伸ばす授業の工夫』

II. 活動の経過

◇4月22日 町中学英語研究会

①平成20年度活動報告

②平成21年度組織作り

役員選出・研究主題の設定・年間活動計画の検討

③ALTとの授業に関する情報交換

◇6月17日 教育研究会英語部会

①副教材の検討

②情報交換と検討

◇10月21日

①研究授業

場 所：第三中学校

対 象：第3学年

授業者：吉本洋人 先生

②情報交換

◇11月25日

①研究授業

場 所：第一中学校

対 象：第3学年

授業者：松島陸麿 先生

◇2月3日

①研究授業(予定)

場 所：第二中学校

対 象：第2学年

授業者：谷所 篤 先生

②研究協議：本年度の反省と来年度の課題

(第三中学校教諭 吉本洋人 記)

八 丈 島

I. 研究主題

1. 基礎学力の充実を目指した指導と評価の工夫
2. 実践的なコミュニケーション能力の育成
3. 高等学校、小学校との連携

II. 活動の経過

◇4月17日 第1回部会

- ・八丈町教育委員会との拡大部会
八丈町の外国人講師学校配当、スケジュール調整
- ・組織作り、研究主題、活動計画、外国人講師との情報交換

◇10月17日 第2回部会

- ・情報交換
- ・「コミュニケーション能力を身につける授業の工夫」についての各学校での実践報告
- ・教授法と英語力向上の研修

◇1月23日 第3回部会

- ・八丈島中学校共通テスト問題についての検討、実施について
- ・国際理解教室について

◇2月18日、19日

八丈島巡回国際理解教室実施
講師にイタリアの方を迎え異文化理解の機会、国際交流の場とし、事前・事後学習も実施

◇2月26日 第4回部会

- ・八丈島中学校共通テストの実施結果の分析と今後の指導方法についての検討と研究

(三原中学校教諭 山入端信之 記)

平成21年度
中英研事業報告

1. 4月21日(火) 役員会
於：駒込中学校
①役員組織等の確認
②年間事業計画の検討
③中英研定期総会に向けて
④役員会の日程
⑤関プロ埼玉大会
⑥全英連関係等
2. 5月8日(金) 定期総会・懇親会
於：南大塚地域文化創造館
①20年度事業報告
②20年度決算報告
③20年度会計監査報告
④新役員の承認
⑤21年度基本方針の承認
⑥21年度事業計画・予算の承認
◎懇親会
3. 6月23日(火) 役員会
於：駒込中学校
①全中連中学校部研究協議会ついて及び全英連全国大会について
②関プロ埼玉大会について
③地区部長、幹事名簿について
④十五大都市北九州大会について
⑤中英研だよりについて
⑥サマーワークショップ関係
⑦コミュニケーションテストについて
⑧都中英研部長・幹事会について
4. 7月17日(金)
「都中英研だより」第57号発行
5. 7月13日(月) 役員会
於：駒込中学校
①関プロ埼玉大会進捗状況
②全英連東京大会について
- ③サマーワークショップ関係
6. 7月29日(水)
全英連中学部会研究協議会
於：北とびあ
講演：「新学習指導要領完全実施にむけた課題」
講師：平木 裕 氏
(文部科学省初等中等教育局教科調査官)
7. 7月～8月
中英研学力調査問題の作成
8. 7月27日(月) 第1回研究部夏期語り
指導ワークショップ
於：品川区立小中一貫学校日野学園
指導者：福島美記子
板橋区立高島第三中学校教諭
大貫由希
町田市立山崎中学校教諭
北原延晃
港区立赤坂中学校教諭
8月6日(木) 第2回研究部夏期語り
指導ワークショップ
於：板橋区立高島第三中学校
指導者：関口 智
葛飾区立常磐中学校教諭
上尾栄美子
江戸川区立篠崎第二中学校教諭
鶴田峰子
中央区立銀座中学校教諭
8月18日(火) 第3回研究部夏期語り
指導ワークショップ
於：中央区立銀座中学校
溪内 明
足立区立第十中学校教諭
佐々木孝紀
江東区立深川第七中学校教諭
石井 亨
江東区立深川第八中学校教諭
9. 8月24日(月) 役員会
於：港区立赤坂中学校
①関プロ埼玉大会について
②全英連東京大会について
③コミュニケーションテスト問題の検討

- 「区市町村英語教育研究部部長会・幹事会」
- ①新学習指導要領について
②関プロ埼玉・東京大会について
③各地区の活動状況について
＜講演会＞
「新学習指導要領全面実施に向けて」
東京外国語大学教授 根岸雅史 先生
10. 9月28日(月) 役員会
於：駒込中学校
- ①関プロ埼玉大会関係
②全英連東京大会について
③関プロ東京大会について
11. 10月16日(金)
第49回15大都市公立中学校英語
教育研究連絡協議会
於：北九州市
12. 10月17日(土)・18日(日)
第58回全国英語研究大会東京大会
於：第1日目日本大学百周年記念館
第2日目日本大学文理学部
13. 10月27日(火) 役員会
於：駒込中学校
- ①関プロ埼玉・東京大会について
②全英連東京大会について
③各種研修会報告
14. 10月30日(金)
授業力アップ研修会
於：府中市立府中第二中学校
授業者：前川卓哉
府中市立府中第二中学校教諭
講師：田口 徹
千代田区立九段中等教育学校
主任教諭
15. 11月13日(金)
第33回関プロ埼玉大会
於：所沢市
主 題：「国際社会の中で生きる心豊
かな生徒の育成」
ーコミュニケーション能力の
基礎を養う育成を等してー
16. 11月25日(水) 役員会
於：駒込中学校
- ①関プロ埼玉大会について
②関プロ東京大会について
③コミュニケーションテストについて
④研究部授業公開と研究発表について
⑤英語学芸大会について
17. 12月3日(木)
「都中英研だより」第57号発行
18. 12月6日(日)
第62回英語学芸大会
於：東洋学園大学本郷キャンパス
19. 1月21日(木) 役員会
於：駒込中学校
- ①研究部発表会の準備
②平成22年度役員人事案
③関プロ東京大会について
20. 2月22日(月) 役員会
於：駒込中学校
- ①研究部発表会について
②平成22年度役員人事について
③次年度活動計画について
④関プロ東京大会について
21. 2月23日(火)
中英研研究部発表会於品川区立小中一
貫校日野学園
①研究授業：岡崎伸一 教諭
②研究発表：「語いと英語教育(23)」
③研究協議：
22. 3月11日(木)
「中英研会報」第68号発行
23. 3月末 役員会予定
於：駒込中学校
- ①21年度各部事業報告
②21年度決算報告
③次年度新役員構成の確認
④次年度総会について
⑤情報交換
⑥研修会
(総務部長：飯島光正 記)

東京都中学校英語教育研究会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は東京都中学校英語教育研究会と称する。
- 第2条 本会は事務局を会長指定の場所に置く。
- 第3条 本会は東京都中学校の英語教育関係者を会員とする。

第2章 目的及び事業

- 第4条 本会は中学校英語教育に関する事項を研究し、会員の識見の向上に努めると共に、英語教育の振興を図ることを目標とする。
- 第5条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
1. 各種研究会の開催（研修会、発表会、講演会等）
 2. 調査活動（コミュニケーションテストの作成とその分析、調査活動等）
 3. 研究調査（英語教育に関わる基礎的かつ実践的な課題等）
 4. 各種英語教育団体との連絡
 5. 機関誌発行、本会の目的達成に必要な事業

第3章 役員及び幹事

- 第6条 本会には次の役員および幹事をおく。
1. 会長1名
 2. 副会長若干名
 3. 部長各部ごと1名
 4. 副部長各部ごと若干名
 5. 会計監査2～3名
 6. 幹事各区市ごとに1～2名
- 第7条 役員を選出は次のとおりとする。
1. 会長・副会長は役員会の推薦により、総会の承認を得なければならない。
 2. 部長・副部長は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
 3. 会計監査は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
- 第8条 役員の仕事は次のとおりとする。
1. 会長は本会を代表し、会務を総括する。
 2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行すると共に、各部を分担する。
 3. 部長は担当副会長と協議の上、部会を召集し、会務を執行する。
 4. 幹事は本部と各地区との連絡にあたる。
 5. 事務局は総務部が担当し、事務局長は総務部長があたる。
 6. 会計監査は会計の監査を行い、その結果を総会に報告する。

第9条 役員の仕事は1年とする。ただし再任を妨げない。

第10条 本会に相談役、参加及び顧問をおくことができる。

1. 相談役はOB会長及び副会長より、参加は現職校長より役員会の推薦により会長が委嘱する。
2. 顧問は英語科出身の指導主事より会長が委嘱する。

第4章 会 議

第11条 会議は次のとおりとする。

1. 総 会
毎年1回会長が召集し、会務の報告、役員的人事、予算、決算等を審議し、決定する。ただし、必要がある場合は臨時に開くことができる。
2. 役員会
会長・副会長・部長をもって構成し、必要に応じて副部長・会計監査を加え、会長の諮問機関とする。
3. 幹事会
役員・幹事をもって構成し、学期1回以上例会を開き、会務を執行する。
4. 部 会
[総務部] 庶務・会計・渉外および他部に属さない事項の処理
[事業部] 会の年間計画・英語学会・研修会、その他会長より委嘱された事業の立案・計画・推進
[調査部] コミュニケーションテスト及び英語教育に関する調査の実施
[出版部] 中英研だより・会報などの発行
[プロジェクト・チーム部] 英語教育に関わる今日のかつ実践的な課題についての研究の推進

第5章 会 計

第12条 本会の会費は東京都中学校研究会よりの交付金をもってあてる。

第13条 本会の経費は会費およびその他の収入による。

第14条 本会の予算・決算は総会の承認を得なければならない。

第15条 本会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6章 付 則

第16条 本会則は昭和60年4月1日より実施する。

第17条 本会則の変更は総会の承認を得なければならない。

第18条 細則は幹事会で定めることができる。

第1次改定 第5条2、3及び第4章4は平成17年5月19日より実施する。

平成21年度 東京都中学校英語教育研究会役員名簿

役名	氏名	所属校
会長	井田 宗宏	東大和市立第二中学校
副会長	竹下 賢	板橋区立板橋第三中学校
〃	清水 研一郎	江東区立南砂中学校
〃	飯島 光正	豊島区立西池袋中学校
〃	廣田 幸男	小平市立第四中学校
〃	牛島 順子	港区立赤坂中学校
〃	重松 靖	国分寺市立第三中学校
〃	阿字 宏康	板橋区立西台中学校
〃	石鍋 浩	足立区立新田中学校
〃	醍醐 路子	豊島区立駒込中学校
総務部長	飯島 光正	豊島区立西池袋中学校
経理部長	牛島 順子	港区立赤坂中学校
副部長	鳥海 重年	中野区立中央中学校
〃	福井 正仁	港区立港陽小学校
〃	石川 真知子	江東区立亀戸中学校
〃	藤原 進	大田区立矢口中学校
部員	田中 誠一郎	東村山市立東村山第四中学校
〃	福島 恵子	練馬区立田柄中学校
〃	近藤 浩	東久留米市立久留米中学校
〃	堀之内 國義	足立区立第十三中学校
〃	石川 容子	足立区立第十二中学校
〃	新野 美紀	練馬区立石神井東中学校
〃	滝口 均	渋谷区立本町中学校
〃	長尾 諭	大田区立石川台中学校
〃	佐々木 昭央	目黒区立第九中学校
調査部長	重松 靖	国分寺市立第三中学校
副部長	刀根 武史	小金井市立東中学校
〃	本多 敏幸	千代田区立九段中等教育学校
部員	今井 一憲	中野区立第二中学校
〃	阿久津 仁史	文京区立茗台中学校

役名	氏名	所属校
部員	兼子真季	大田区立大森第八中学校
"	斉藤豊	江東区立第二南砂中学校
"	白井靖子	江東区立第二大島中学校
"	佐藤恵美	墨田区立文花中学校
"	白川智恵子	練馬区立大泉北中学校
"	小椋由紀子	荒川区立第三中学校
"	伊地知可奈	練馬区立八坂中学校
"	大森博	練馬区立中村中学校
"	大澤陽子	新宿区立牛込第三中学校
"	木村弘恵	世田谷区立上祖師谷中学校
"	三木謙二郎	大田区立馬込中学校
"	田中すみ子	豊島区立西巢鴨中学校
"	阿坂真人	小平市立上水中学校
"	川口三保子	府中市立府中第六中学校
"	岸川裕子	府中市立府中第一中学校
"	野口哉寿子	小金井市立東中学校
"	野田まり子	瑞穂町立瑞穂第二中学校
"	瀬谷光子	世田谷区立芦花中学校
"	山下郁子	世田谷区立松沢中学校
"	宮崎大樹	あきる野市立秋多中学校
"	幡野洋子	日野市立日野第四中学校
"	斉藤基	日野市立三沢中学校
"	関口美佐緒	千代田区立九段中等教育学校
"	永井剛	武蔵野市立第二中学校
"	門倉聖恵	八王子市立みなみ野中学校
"	各務公仁余	江東区立深川第五中学校
"	須藤礼子	新宿区立西早稲田中学校
"	橋本浩	八王子市立由井中学校
"	鈴木悟	港区立港南中学校
事業部長	横山達也	多摩市立和田中学校
担当校長	牛島順子	港区立赤坂中学校

役名	氏名	所属校
副部長	田口 徹	千代田区立 九段中等教育学校
"	田島 久士	大田区立 糀谷中学校
"	相沢 隆二	文京区立 第一中学校
部員	米澤 登志子	目黒区立 第八中学校
"	多田 渉	大田区立 大森第二中学校
"	吉澤 ひとみ	足立区立 千寿桜堤中学校
"	明石 達彦	千代田区立 九段中等教育学校
"	大屋 剛	練馬地区中高一貫6年制学校開設準備室
"	雲出 和子	にしみたか学園三鷹市立第二中学校
"	斉藤 節子	清瀬市立 清瀬第二中学校
"	竹中 敬子	都立城南特別支援学校
"	漆畑 拓也	世田谷区立 船橋中学校
"	前川 卓哉	府中市立 府中第二中学校
研究部長	北原 延晃	港区立 赤坂中学校
担当校長	阿字 宏康	板橋区立 西台中学校
副部長	石井 亨	江東区立 深川第八中学校
"	鶴田 峰子	中央区立 銀座中学校
"	関口 智	葛飾区立 常磐中学校
部員	二宮 正男	新宿区立 落合中学校
"	原田 博子	江東区立 深川第一中学校
"	溪内 明	足立区立 第十中学校
"	杉本 薫	都立両国高等学校附属中学校
"	岸 由季	町田市立 山崎中学校
"	福島 美記子	板橋区立 高島第三中学校
"	岡崎 伸一	品川区立 日野学園中学校
"	福井 洋子	町田市立 鶴川第二中学校
"	金子 健次郎	大田区立 大森第七中学校
"	横山 牧子	狛江市立 狛江第一中学校
"	永松 朋美	江東区立 第三砂町中学校
"	佐々木 孝紀	江東区立 深川第七中学校
"	川崎 慶介	新島町立 新島中学校

役名	氏名	所属校
部員	上尾 栄美子	江戸川区立 篠崎第二中学校
"	江濱 悦子	大田区立 貝塚中学校
"	中川 智子	大田区立 大森第十中学校
"	太田 恵美子	江戸川区立 西葛西中学校
出版部長	池田 武男	西東京市立 田無第四中学校
担当校長	石鍋 浩	足立区立 新田中学校
副部長	平林 澄子	練馬区立 中村中学校
"	渡辺 雅子	足立区立 六月中学校
"	小柳 守生	文京区立 第十中学校
部員	下路 博朗	足立区立 第四中学校
"	三岡 一隆	練馬区立 石神井西中学校
"	今本 由美子	練馬区立 大泉中学校
"	中井 正弘	東久留米市立 中央中学校
"	赤塚 貴音	台東区立 桜橋中学校
"	鈴木 咲子	東村山市立 東村山第七中学校
"	岡部 芳枝	文京区立 文林中学校
"	塩田 裕明	練馬区立 大泉中学校
"	當麻 忠幸	西東京市立 ひばりが丘中学校
P T部長	石川 賢司	墨田区立 錦糸中学校
副部長	佐藤 順一	墨田区立 文花中学校
"	上尾 栄美子	江戸川区立 篠崎第二中学校
部員	大内 由香里	江戸川区立 葛西第三中学校
"	岸川 裕子	府中市立 府中第一中学校
"	原田 博子	江東区立 深川第一中学校
"	下田 文子	多摩市立 諏訪中学校
"	角田 幸彦	墨田区立 鐘淵中学校
"	中谷 愛	多摩市立 東愛宕中学校
"	後藤 美由紀	三鷹市立 第二中学校
会計監査	大野 容義	青梅市立 第一中学校
"	稲葉 秀哉	板橋区立 赤塚第二中学校
"	和田 文宏	狛江市立 狛江第三中学校

平成21年度 顧問

氏 名	役 職
高野 敬三	教 育 庁 指 導 部 長
松岡 敬明	東京都教職員研修センター研修部教育開発課長
奈良本 俊夫	教育庁指導部主任指導主事
原田 承彦	練馬区教育指導課長
宇田 剛	青梅市指導室長
新庄 恵子	国分寺市指導室長
小澤 哲郎	教育庁指導部指導企画課統括指導主事
川越 豊彦	教育庁都立学校教育部高等学校教育課統括指導主事
瀧沢 佳宏	教育庁人事部試験室統括指導主事
宮野 聡	東京都教職員研修センター研修部授業力向上課統括指導主事
荻野 勉	西部学校経営支援センター統括学校経営支援主事
石村 康代	新宿区教育委員会統括指導主事
難波 浩明	北区教育委員会統括指導主事
田谷 至克	大田区教育委員会統括指導主事
清野 正	豊島区教育委員会統括指導主事
五十嵐 浩子	練馬区教育委員会統括指導主事
松永 透	三鷹市教育委員会統括指導主事
岩崎 紀美子	教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事
市村 裕子	教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事
米村 珠子	教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事
渋谷 寿朗	教育庁都立学校教育部高等学校教育課指導主事
板垣 繁	教育庁都立学校教育部高等学校教育課指導主事
金 眞 広明	教育庁指導企画課指導主事
林 宣之	東京都教職員研修センター研修部教育経営課指導主事
高橋 美香	東京都教職員研修センター研修部授業力向上課指導主事
紺谷 祥一	東京都教育相談センター指導主事
長嶋 浩一	西部学校経営支援センター支所学校経営支援主事
平岡 栄一	荒川区教育委員会指導主事
木内 苗津子	世田谷区教育委員会指導主事
田原 弘一	杉並区教育委員会指導主事
西貝 裕武	足立区教育委員会指導主事
阿部 啓介	東大和市教育委員会指導主事
重山 直毅	清瀬市教育委員会指導主事
佐藤 勝也	文京区教育委員会指導主事

参 与

氏 名	学 校 名	職 名
佐藤 榮 一	港区立 港陽中学校	校 長
岩崎 正道	世田谷区立 緑丘中学校	”
中村 貴美子	世田谷区立 梅丘中学校	”
山崎 勉	世田谷区立 東深沢中学校	”
岡部 正直	世田谷区立 三宿中学校	”
野瀬 博	世田谷区立 弦巻中学校	”
島本 環樹	渋谷区立 笹塚中学校	”
菅野 武彦	杉並区立 松溪中学校	”
齐藤 進	荒川区立 尾久八幡中学校	”
大山 明	練馬区立 石神井中学校	”
西 正 広	練馬区立 豊溪中学校	”
中野 利彦	足立区立 江南中学校	”
荒川 善則	足立区立 上沼田中学校	”
本庄 文男	足立区立 谷中中学校	”
田幸 徹	足立区立 花畑北中学校	”
増淵 裕康	足立区立 東島根中学校	”
余野 直紀	葛飾区立 高砂中学校	”
鈴木 博久	八王子市立 第二中学校	”
小谷野 良行	八王子市立 甲ノ原中学校	”
鈴木 茂生	八王子市立 鏈水中学校	”
増澤 強	武蔵野市立 第五中学校	”
岡崎 美昭	青梅市立 新町中学校	”
山崎 好美	府中市立 府中第七中学校	”
浅倉 隆壽	昭島市立 清泉中学校	”
中島 理智	西東京市立 田無第三中学校	”
山口 順一	多摩市立 落合中学校	”
和田 雅光	青ヶ島村立 青ヶ島中学校	”

あ と が き

この度は、ご多忙の中、文部科学省初等中等教育局教育課程課・国際教育課教科調査官の平木裕先生をはじめ、ご執筆を賜りました多くの皆様のお陰をもちまして「都中英研会報 第68号」を発行するはこびとなりました。厚く御礼申し上げます。

さて、平木先生が、本誌の中で「中学校こそ変わらなければならない！」と警鐘を鳴らしておられます。先生のご指摘の通り、我が国の英語教育は大きな変革期を迎えようとしております。それは、単に、小学校外国語活動の本格実施のみを指しているのではありません。平成24年度から中学校で実施される新学習指導要領へ向けて、万全の準備を怠ることのないよう、確実に着実に研修を進めていかなければならないことを示唆しているものと考えます。

「コミュニケーション能力の基礎」「素地」「統合的な育成（指導）」等々、キーワードへの咀嚼は進んでいるでしょうか。言語活動や言語材料の扱いを含めた1年間だけでなく3年間を見通した指導計画の在り方を検討しているでしょうか。新教育課程の改訂は遠い未来のことではありません。たった2年間しか猶予のないすぐ先のことです。英語は、他のどの教科よりも週あたりの配当時間が多くなります。「失敗は許されない」という覚悟をもって臨まなければなりません。

東京都の中学校英語科教員が、この重要な課題に向かって、真摯に取り組んでいる状況を本誌から読み取ることができます。それは、地区活動状況報告のページです。

今回もうれしいことに、本誌を通して、東京都全地区からの活動報告を紹介することができました。このことについては、あらためまして、原稿を執筆していただいた地区部長・幹事の方々に感謝を申し上げます。本誌を手にとられた方には、ぜひとも、このページに目を通していただきたいと存じます。都内各地区の研修活動の状況が理解できるばかりでなく、前述の重要課題への取組を進めている状況や様子が伺い知れます。この足下からの着実な取組こそが、大きな変革期を乗り切るために必須な姿勢と言えます。地道ではありますが、このような各地区の研究活動に、心より敬意を表します。今後とも、地区研究活動の充実と発展を祈念するものです。

最後になりましたが、本誌の発行にあたり、ご支援を賜りました多くの先生方に御礼申し上げますとともに、会員の先生方の一層のご活躍をお祈りいたします。

(都中英研出版部長 池田 武男)